

SYLLABUS  
シラバス  
令和7年度

作業療法士科

医療法人社団 慈恵会  
神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育 I		講義・演習	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	後期
授業の目的と概要				
この講義は、医療・福祉・保健分野における専門職連携 (Interprofessional Collaboration) の意義を理解し、異なる専門職の役割や視点を知り、他者を尊重しながら対話・共感・協働できる資質・行動力の育成を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 多職種存在と役割を知る 2. 自分とは異なる立場・価値観を持つ学生と協働する体験を通じて、他者理解の基礎を培う 3. 初歩的なコミュニケーションスキルとグループワークの基礎を身につける				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション・IPEとは (目標：IPEの意義を知り、他学科学生と交流を始める)			
2	職種紹介① (放射・臨工・視能・理学・作業・歯科)			
3	職種紹介② (放射・臨工・視能・理学・作業・歯科)			
4	職種紹介③ (放射・臨工・視能・理学・作業・歯科)			
5	グループワーク			
6	グループワーク ポスター作り			
7	発表準備、各会場でポスター発表			
8	優秀ポスター発表と振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	60%	リフレクションシートで評価する		
小テスト				
平常点				
その他	40%	グループワークへの取り組み、ポスター、発表で評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
リハビリテーション医学		講義	嘉納 綾・中島 大輔	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
リハビリテーション医学とは、病気やケガによる障害を診断し、障害をもつ方々が地域社会において持てる能力を最大限に発揮しながら生きがいのある生活を送れるように、チームでサポートするものである。この講義では、リハビリテーションにおけるチーム医療を学ぶとともに、生活機能の捉え方を理解することを目指す。				
授業の到達目標				
1. リハビリテーションの理念を説明できる。 2. 生活機能を構成する要素を説明できる。 3. 他職種連携の重要性を説明できる。 4. 障害をもつ人が生き生きとした生活を送るための総合的な医療サービスについて考えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	リハビリテーションの理念と定義【嘉納】			
2	健康と生活機能【嘉納】			
3	リスク管理、医療安全と感染対策【嘉納】			
4	他職種連携と協働【嘉納】			
5	機能障害とリハビリテーション治療【嘉納】			
6	回復期の作業療法の業務紹介【中島】			
7	他職種連携の紹介、病院見学【中島】			
8	グループワーク【中島】			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	65%			
レポート・課題	35%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学	上月正博・高橋仁美 編		メジカルビュー社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
リハビリテーション概論		講義	淡路 大致・井上 直樹 他	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
この講義では、「リハビリテーションとは何か？」というテーマに沿って、その歴史、目的、理念、思想、障がいと健康について学ぶ。目的の実現のためには「チームで行う」ことが多いため、他職種の専門性と連携について学び、チームの中での作業療法士の役割について考える。また、障害のある方を招いて障がいと共に生活してきた経験・心理面での変化や障害者スポーツとの関わりについて講演していただき、障がいと共に生きるとはどういうことかを理解する。				
授業の到達目標				
1. リハビリテーションの理念や定義を正しく述べることができる。 2. 各専門職の役割について述べるができる。 3. 障害者の心理的特徴を述べるができる。 4. 対象者の情報を整理することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション・リハビリテーションとは？ その概念・理念・定義			
2	チームアプローチとは			
3	インフォームドコンセント・障害者の心理			
4	リハビリテーションの実際①			
5	リハビリテーションの実際②			
6	疾病と障害構造			
7	ICFについて①			
8	ICFについて②			
9	ICFについて③			
10	理学療法士について			
11	言語聴覚療法士について			
12	看護師について			
13	障害のある方を招いての講演①			
14	障害のある方を招いての講演②			
15	講演から障害者の生活を考える			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	到達目標の達成度により評価する		
レポート・課題	30%	各専門職や特別講義後のレポート課題で評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				
授業予定が前後することがある。変更の場合は書面または口頭にて通達する。				

科目名		授業形態	担当教員名	
医学英語		講義	續 なおみ	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>作業療法の基礎的事項を学習しながら、作業療法に関連する専門語彙と英文読解、さらに診療場面での会話体を学習することによって医学英語を習得する。            毎回授業の終わりに授業内容の要点をプリントで確認する。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 教科書に載っている医学英語が理解できる            2. 教科書に載っている作業療法の専門語彙や語句、英会話を理解し応用できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	Prologue / <b>Chapter 1</b> Fundamental study for OT §1 Why do you want to become an OT ?			
2	§2 What do you have to study to be an OT ? / §3 What does occupation mean?			
3	<b>Chapter 2</b> Clinical training: Assessment §1 A greeting and explanation / §2 Sharing information			
4	§3 Interview / §4 Physical functions			
5	§5 Psychological functions / §6 Higher brain dysfunction			
6	<b>Chapter 3</b> Completion of assessment and treatment §1 Conference / §2 OT for physical dysfunction			
7	§3 OT for mental disorders / §4 OT for developmental disabilities			
8	§5 OT for elderly people / §6 community-based occupational therapy			
9	<b>Chapter 4</b> Client-centered occupational therapy §1 ICF / §2 A practice based on CMOP			
10	§3 Clinical reasoning to think in action / §4 A practice based on MOHO			
11	§5 Joint protection for ADL and IADL / §6 Environmental modification			
12	<b>Chapter 5</b> Fundamental concepts §1 Occupation / §2 Engagement in occupation			
13	§3 Occupational justice / §4 Inclusion			
14	§5 Rehabilitation / §6 Health promotion			
15	Epilogue /総復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
英語で学ぶ作業療法 Let's study OT in English	山内ひさえ 他		(株)シービーアール	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動学		講義	中田 修	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
この授業では、解剖学や生理学を参考にしながら、身体の動きのメカニズムや生理的作用について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 各関節の動きを運動学的用語（屈曲、回外など）で他者に説明することができる。 2. 観察した簡単な動作について正しい用語で説明することができる。 3. 基本的な姿勢分析を行うことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	関節の構造と関節運動①			
2	関節の構造と関節運動②			
3	骨格筋の運動			
4	下肢帯と下肢の運動①			
5	下肢帯と下肢の運動②			
6	上肢帯の運動			
7	上肢と手指の運動①			
8	上肢と手指の運動②			
9	頸部と体幹の運動			
10	感覚と運動			
11	姿勢			
12	バランスと運動			
13	エネルギー代謝と体力			
14	歩行分析の基礎			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	教科書及び授業で配ったプリントの内容を問うテストを行うことで評価する		
レポート・課題				
小テスト	30%	適宜実施する小テストの得点で評価する		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
基礎運動学 第7版	中村隆一・齋藤宏・長崎浩	医歯薬出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
PT・OT 基礎から学ぶ 運動学ノート 第2版	中島雅美・中島喜代彦 編	医歯薬出版		
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動学演習 I		演習・講義	岡田 誠暁・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
この授業では解剖学や運動学で学んだ知識を使いながら（必要に応じて知識の補強を図りながら）、実際の動作について学ぶ。学生は自分の身体で確認しながら運動や動作を行うことで、必要な筋や関節の動きに対する理解を深める。				
授業の到達目標				
1. 各関節の動きを運動学的用語（屈曲、回外など）で他者に説明することができる。 2. 観察した簡単な動作について正しい用語で説明することができる。 3. 基本的な姿勢分析を行うことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	関節の構造と関節運動① 【岡田】			
2	関節の構造と関節運動② 【岡田】			
3	筋の構造と働きと収縮様式 【岡田】			
4	上肢帯と上肢の運動① 【大永】			
5	上肢帯と上肢の運動② 【大永】			
6	上肢帯と上肢の運動③ 【大永】			
7	上肢帯と上肢の運動④ 【大永】			
8	下肢帯と下肢の運動① 【大永】			
9	下肢帯と下肢の運動② 【大永】			
10	下肢帯と下肢の運動③ 【大永】			
11	体幹の運動 【大永】			
12	姿勢・重心・力のモーメント① 【岡田】			
13	姿勢・重心・力のモーメント② 【岡田】			
14	歩行について 【岡田】			
15	基本動作の成り立ち 【岡田】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	教科書及び授業で配ったプリントの内容を問うテストを行うことで評価する		
レポート・課題				
小テスト	30%	定期的に授業の内容を問う小テストを行うことで評価する		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
基礎運動学 第7版	中村隆一・齋藤宏・長崎浩	医歯薬出版		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学	野村巖 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
PT・OT 基礎から学ぶ 運動学ノート 第2版	中島雅美・中島喜代彦 編	医歯薬出版		
自由記載				
備考				
覚える範囲が多いので授業終了後に知識の整理をすることをお勧めします。複雑な関節運動の理解が難しい場合は適宜、骨標本で実際の運動を再現する等を行い、教員に確認して理解できるよう努めて下さい。				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動学演習Ⅱ		演習・講義	中島 大輔	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
この授業では解剖学や運動学で学んだ知識を使いながら（必要に応じて知識の補強を図りながら）、実際の動作について学ぶ。学生は自分の身体で確認しながら運動や動作を行うことで、必要な筋や関節の動きに対する理解を深める。後半では視聴覚教材等を使って実際の動作を観察し、姿勢維持や動作の際に注目すべきポイントを学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 臥位の姿勢分析ができる。 2. 座位の姿勢分析ができる。 3. 立位の姿勢分析ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	臥位の姿勢分析①			
3	臥位の姿勢分析②			
4	臥位の姿勢分析③			
5	臥位の姿勢分析④			
6	座位の姿勢分析①			
7	座位の姿勢分析②			
8	座位の姿勢分析③			
9	座位の姿勢分析④			
10	立位の姿勢分析①			
11	立位の姿勢分析②			
12	立位の姿勢分析③			
13	まとめ①			
14	まとめ②			
15	まとめ③			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	90%	各姿勢分析や動作分析の結果を提出したもので評価する		
小テスト				
平常点	10%	授業への参加態度や出欠状況で評価する		
その他				
自由記載		再試験は実施しない		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
基礎運動学 第7版	中村隆一・齋藤宏・長崎浩	医歯薬出版		
PT・OT 基礎から学ぶ 運動学ノート 第3版	中島雅美・中島喜代彦 編集	医歯薬出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態		担当教員名	
解剖学 I		講義		小形 晶子	
時間数 (単位数)		授業回数		年次	
60 時間 ( 2 単位)		30 回		1 年次	
				開講時期	
				前期	
授業の目的・概要					
解剖学は人体の形と構造を研究する学問である。作業療法士にとって、骨や筋、神経など、運動に関する臓器は特に重要であるが、同時に人体全体の構造についても十分な知識を持っておく必要がある。この科目では、人体全体の構造についての概論と運動に特に関連の深い筋骨格系、循環、呼吸器系について取り扱う。人体全体の構造および筋骨格系や循環、呼吸器系が生体の中でどのような機能を持っているかを理解することを目的とする。					
授業の到達目標					
1. 人体を構成する器官系の名称やその機能を説明できる。		5. 心臓の構造と機能について説明できる。			
2. 骨格の位置や構造、作用を説明できる。		6. 全身の動脈系やリンパ系について説明できる。			
3. 人体の各関節の特性や主要な骨格筋について説明できる。		7. ガス交換に関与する肺と、発声に関与する喉頭について説明できる			
4. 体循環と肺循環について説明できる。					
授業計画					
回	内容				
1	人体の構造		16	下肢帯および下肢の筋	
2	細胞の構造		17	体表解剖学 I (体幹、上肢)	
3	上皮組織		18	体幹解剖学 II (下肢)	
4	結合組織		19	血液 I (血液の組成)	
5	骨・軟骨組織		20	血液 II (細胞成分)	
6	筋組織		21	血管の構造	
7	神経組織		22	心臓	
8	関節の種類と構造、支持組織		23	肺循環	
9	頭頸部の骨格		24	全身の動脈 I (大動脈)	
10	頭頸部の筋		25	全身の動脈 II (末梢の動脈)	
11	体幹の骨格		26	全身の静脈	
12	体幹の筋		27	リンパ、リンパ管	
13	上肢帯および上肢の骨格		28	リンパ性器官	
14	上肢帯および上肢の筋		29	呼吸器 I (鼻腔、咽頭、喉頭)	
15	下肢帯および下肢の骨格		30	呼吸器 II (気管支、肺)	
成績の評価方法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
定期試験	90%				
レポート・課題					
小テスト	10%				
平常点					
その他					
自由記載					
教科書					
書名	著者・編集者名			出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能	医療情報科学研究所			メディックメディア	
実習にも役立つ人体の構造と体表解剖 第2版	三木明德			金芳堂	
自由記載					
参考文献					
書名	著者・編集者名			出版社名	
自由記載					
備考					

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学Ⅱ		講義	小形 晶子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
60 時間（2 単位）		30 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
解剖学は人体の形と構造を研究する学問である。作業療法士にとって、骨や筋、神経など、運動に関する臓器は特に重要であるが、同時に人体全体の構造についても十分な知識を持つ必要がある。この科目では、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系に加え、運動に特に関連の深い神経系について取り扱う。各器官系の構造と機能およびそれぞれが生体の中でどのような機能を持っているかを理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 胃、腸、肝臓および嚥下に関与する構造体を説明できる。 5. 脳および脊髄の構造を説明できる。 2. 腎臓および排尿に関与する構造体を説明できる。 6. 上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位を説明できる。 3. 生殖に関与する構造体と機能を説明できる。 4. 内分泌に関与する構造体と機能を説明できる。				
授業計画				
回	内容		回	内容
1	消化器系Ⅰ（消化管の一般構造、腸間膜）		16	終脳
2	消化器系Ⅱ（口、咽頭、食道）		17	脳室
3	消化器系Ⅲ（胃、小腸、大腸）		18	脳の血管
4	消化器系Ⅳ（肝臓と脾臓）		19	脳神経Ⅰ（Ⅰ～Ⅴ脳神経）
5	泌尿器Ⅰ（腎臓）		20	脳神経Ⅱ（Ⅵ～Ⅻ脳神経）
6	泌尿器Ⅱ（尿管、膀胱、尿道）		21	脊髄神経Ⅰ（頸神経叢と腕神経叢）
7	男性生殖器		22	脊髄神経Ⅱ（胸神経、大腿神経叢と仙骨神経叢）
8	女性生殖器		23	自律神経Ⅰ（概要と形態）
9	内分泌系Ⅰ（内分泌系の概要）		24	自律神経Ⅱ（交感神経と副交感神経）
10	内分泌系Ⅱ（内分泌器官）		25	感覚器Ⅰ（皮膚、嗅覚器）
11	神経系の構成要素		26	感覚器Ⅱ（視覚器、聴覚器、味覚器）
12	神経系の発生		27	上行性伝導路Ⅰ（触覚と痛覚）
13	脊髄		28	上行性伝導路Ⅱ（特殊感覚）
14	脳幹と小脳		29	下行性伝導路
15	間脳		30	人の発生と分化
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%			
レポート・課題				
小テスト	10%			
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
からだが見える 人体の構造と機能	医療情報科学研究所	メディックメディア		
実習にも役立つ人体の構造と体表解剖 第2版	三木明徳	金芳堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習 I		演習・講義	嘉納 綾	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
上肢の骨と筋、関節の構造と機能を理解し、対象者の運動や動作を理解する上での基礎学力の習得を目指す。骨格標本等を用いて立体的に理解できるように授業を進める。学んだ内容について「骨・関節と靭帯」「筋の起始・停止と作用」の2分野に分けて口頭試問を実施し理解度の確認を行うことで、実践的な知識の習得を目指す。				
授業の到達目標				
1. 上肢の骨・関節・靭帯を説明できる。 2. 上肢の筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。 3. 腕神経叢について説明できる。 4. 手の変形について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	骨の構造と骨部位の名称			
2	関節の構造と機能、靭帯			
3	骨・関節のまとめ			
4	骨・関節の口頭試問、筋の起始・停止			
5	筋の起始・停止・走行			
6	関節運動の主動作筋			
7	筋の作用と神経支配、手の変形			
8	まとめと筋の口頭試問			
成績の評価方法及び基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	授業の理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	50%	口頭試問を行う		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版	野村巖 編		医学書院	
分冊解剖学アトラス I 運動器 第6版	平田幸男 訳		文光堂	
基礎運動学 第7版	中村隆一 他		医歯薬出版	
新・徒手筋力検査法 原著第10版	津山直一 他訳		協同医書	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
予習課題がありますので、期日までに提出してください。				

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習Ⅱ		演習・講義	井上 直樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>下肢の骨や靭帯、関節の構造と機能を理解し、その関節が筋肉の働きによってどのように動いているのかを理解する。そうすることで、患者の運動や動作を分析する上での基礎学力の習得を目指す。骨格標本等を用いて立体的に理解できるように授業を進める。学んだ内容について「骨と靭帯」「筋の作用」の2分野に分けて口頭試問を実施し理解度の確認を行うことで、実践的な知識の習得を目指す。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下肢の骨・関節・靭帯を説明できる。</li> <li>2. 下肢の筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。</li> <li>3. 歩行での筋の働きについて説明できる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	骨の構造と骨部位の名称			
2	関節の構造と靭帯の作用			
3	骨・関節のまとめ			
4	まとめと下肢の骨・靭帯の口頭試問			
5	筋の起始・停止・作用・支配神経、歩行時の筋の作用①			
6	筋の起始・停止・作用・支配神経、歩行時の筋の作用②			
7	筋の起始・停止・作用・支配神経、歩行時の筋の作用③			
8	まとめと下肢の筋の口頭試問			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	授業の理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	50%	口頭試問を行う		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版	野村巖 編		医学書院	
基礎運動学 第7版	中村隆一 他		医歯薬出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習Ⅲ		演習・講義	大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
骨と筋、関節の構造と機能を理解し、対象者の運動や動作を理解する上での基礎学力の習得を目指す。骨格標本や視聴覚教材を用いて立体的に理解できるように授業を進める。学んだ内容について口頭試問を実施し理解度の確認を行うことで、実践的な知識の習得を目指す。				
授業の到達目標				
1. 体幹の骨部位の名称を説明できる。 2. 体幹の関節の構造と機能が説明できる。 3. 体幹の筋の起始・停止・作用・神経支配が説明できる。 4. 呼吸運動の仕組みと筋について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	体幹の骨の形態と骨部位の名称①			
2	体幹の骨の形態と骨部位の名称②			
3	体幹の関節の構造と機能、靭帯			
4	口頭試問			
5	体幹の筋の起始・停止・作用・神経支配①			
6	体幹の筋の起始・停止・作用・神経支配②			
7	呼吸運動の仕組みと筋			
8	口頭試問			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	授業の理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	50%	口頭試問を行う		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版	野村巖 編		医学書院	
分冊解剖学アトラス I 運動器 第6版	平田幸男 訳		文光堂	
基礎運動学 第7版	中村隆一 他		医歯薬出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習Ⅳ		演習・講義	嘉納 綾・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>作業療法では脳血管障害や頭部外傷など中枢神経の損傷による機能障害を呈する患者に対応することが多い。そこでこの授業では、中枢神経を「大脳」「基底核～小脳」「脊髄」に分け、模型や図表を使いながらそれぞれの「構造」と「機能」を理解することを目指す。</p>				
授業の到達目標				
1. 大脳の構造を説明できる。		5. 基底核～小脳の機能を説明できる。		
2. 大脳の機能を説明できる。		6. 脊髄の機能解剖が説明できる。		
3. 脳の血液や脳脊髄液を模式図を書いて説明できる。		7. 自律神経の仕組みと働きが説明できる。		
4. 基底核～小脳の構造を説明できる。		8. 脳幹の機能解剖及び脳神経の働きと経路が説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	大脳（1）大脳の基本構造【嘉納】			
2	大脳（2）脳葉【嘉納】			
3	大脳（3）大脳の機能局在【嘉納】			
4	大脳（4）脳の血液循環【嘉納】			
5	大脳（5）脳膜と脳室【嘉納】			
6	基底核～小脳（1）大脳辺縁系【井上】			
7	基底核～小脳（2）大脳基底核【井上】			
8	基底核～小脳（3）間脳【井上】			
9	基底核～小脳（4）小脳【井上】			
10	基底核～小脳（5）伝導路【井上】			
11	中枢神経と末梢神経の違い、脊髄【大永】			
12	脳幹【大永】			
13	脊髄を通る伝導路【大永】			
14	脳神経【大永】			
15	反射、自律神経【大永】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	授業の理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版	野村巖 編	医学書院		
分冊解剖学アトラスⅢ神経系と感覚器 第6版	平田幸男 訳	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
実習にも役立つ人体の構造と体表解剖 第2版	三木明德	金芳堂		
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎作業学		講義・演習	岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
私たちの生活はすべて作業から成り立っている。この講義では、作業が人の健康にどのように影響を及ぼしているのかを理解し、作業を治療に用いることができるようになることを目指す。 具体的には作業が持つ意味や特性を学び、作業分析と活動分析を行う。				
授業の到達目標				
1. 作業療法における作業とは何かを考えられる。 2. 人にとっての作業の意味を考えられる。 3. 作業の形態について説明できる。 4. 作業は人の生活の中で何の役に立っているのかを説明できる。 5. 作業分析ができる。 6. 作業の治療的応用について考えられる。				
授業計画				
回	内容			
1	作業と作業療法について			
2	作業活動について			
3	人と作業			
4	作業と生活機能			
5	道具・材料・環境			
6	作業分析の目的			
7	作業分析①演習			
8	作業分析②演習			
9	作業分析③演習			
10	作業分析まとめ			
11	レクリエーション演習分析①			
12	レクリエーション演習分析②			
13	レクリエーション演習分析③			
14	レクリエーション演習分析まとめ			
15	基礎作業学 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	作業分析・レクリエーション演習分析 課題		
小テスト				
平常点				
その他	70%	プレゼンテーションの出来栄え 授業への参加態度		
自由記載		グループワークのプレゼンテーションやレポートなどで評価するため、再試験は実施しない。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
作業、その治療的応用	日本作業療法士協会		協同医書	
ひとと作業・作業活動	山根寛		三輪書店	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎作業学演習 I		演習・講義	中曾 晃子・岸田 由起・岡田 誠暁	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>作業療法の臨床で用いられる幅広い作業の種目別技法を身につけるとともに、その作業を治療的に応用する視点を学ぶことを目的とする。具体的には陶芸・音楽療法・モザイクアートを体験し、治療的応用を考える。陶芸は中曾、音楽療法は岸田、モザイクアートは岡田が担当する。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 陶芸の作品を制作できる。</li> <li>2. 音楽療法とその治療的意義について説明できる。</li> <li>3. モザイクアート作品を制作できる。</li> <li>4. 作業工程を理解し、注意点及びリスク管理が説明できる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	陶芸			
3	陶芸			
4	陶芸			
5	陶芸			
6	陶芸			
7	陶芸			
8	陶芸			
9	陶芸			
10	音楽療法 音楽療法の歴史・定義・理論			
11	音楽療法 高齢者領域			
12	音楽療法 障害者・緩和ケア領域			
13	音楽療法 様々な音楽療法			
14	モザイクアート			
15	モザイクアート			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	レポート課題にて評価する。【岸田】		
小テスト				
平常点	10%	準備物、課題の持参を含め、授業への参加態度で評価する。【全員】		
その他	60%	提出作品で評価する。(※陶芸はプリント資料も含む)【中曾・岡田】		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業活動実習マニュアル第2版	古川宏 監修	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
準備物が多いので、事前に掲示板を確認しておくこと。				

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎作業学演習Ⅱ		演習・講義	嘉納 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
作業療法の臨床で用いられる幅広い作業の種目別技法を身につけるとともに、その作業を治療的に応用する視点を学ぶことを目的とする。具体的には革細工・マクラメ・スプールウィービングを体験し、治療的応用を考える。				
授業の到達目標				
1. 各作業種目の全工程を実践し、作品を完成させることができる。 2. 作品の製作で使用する道具や材料の準備・後片付けが適切に行える。 3. 作業工程ごとの注意点及びリスク管理が説明できる。 4. 作業の治療的応用の具体例を説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	革細工			
2	革細工			
3	革細工			
4	革細工			
5	マクラメ			
6	マクラメ			
7	マクラメ			
8	マクラメ			
9	マクラメ			
10	マクラメ			
11	マクラメ、スプールウィービング			
12	スプールウィービング			
13	スプールウィービング			
14	スプールウィービング、作業分析			
15	道具の点検、整理			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	25%	作業分析のレポート		
小テスト				
平常点	15%	授業への参加態度（道具・材料の準備や後片づけを含む）で評価する		
その他	60%	提出作品		
自由記載	再試験は実施しない			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業活動実習マニュアル第2版	古川宏 監修	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
各作業種目の製作にあたり、準備・後片づけ、リスク管理の徹底を求めます。				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
見学実習		実習	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
45 時間（1 単位）		回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
施設見学を通して、その施設の特徴と地域における役割、および対象者への対応について学ぶ。また、複数の施設を見学することで作業療法の多様性を知り、それぞれの施設での作業療法士の役割を理解する。				
授業の到達目標				
1. 実習生として適切な態度や行動をとることができる。 2. 施設の特性とその施設における作業療法士の役割を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
	オリエンテーション①			
	見学実習①			
	実習期間：9月8日～9月10日（2日間）			
	実習施設：病院、介護保険施設、就労継続支援施設、小児施設など学校が依頼し決定した施設			
	実習形態：同一施設で、臨床教育指導者の指導のもと作業療法実践現場や関係部署の見学を行う			
	実習報告会①			
	各施設の特徴や作業療法士の役割など、学んだことの発表を行う			
	オリエンテーション②			
	見学実習②			
	実習期間：2月25日～2月28日（3日間）			
	実習施設：病院、介護保険施設、就労継続支援施設、小児施設など学校が依頼し決定した施設			
	実習形態：同一施設で、臨床教育指導者の指導のもと作業療法実践現場や関係部署の見学を行う			
	実習報告会②			
	各施設の特徴や作業療法士の役割など、学んだことの発表を行う			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習内容・報告会での発表などから総合的に評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
令和7年度見学実習の手引き（神戸総合医療専門学校 作業療法士科）				
自由記載				
備考				
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため、感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理につとめ、特に実習期間は健康に留意すること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法概論 I		講義・演習	嘉納 綾 他	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
作業療法について、その全体像を総合的・体系的に理解する。具体的には、作業療法における作業の概念を理解するとともに、作業療法の歴史と理論を知る。作業療法実践過程の中での評価の重要性を理解する。4つの領域で働いている作業療法士の話を聞き、その特徴と魅力を知る。さらに、対象となる「障害」について理解を深め、「障害をもつ人」の作業の可能性を目指す作業療法の役割について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 作業療法とは何かを説明できる。		5. 作業療法の理論を挙げ、説明できる。		
2. 作業の意味と内容を説明できる。		6. 作業療法の実践過程を説明できる。		
3. 日本の作業療法士誕生から今日までの経過を説明できる。		7. 作業療法評価について説明できる。		
4. 諸外国の作業療法発展の歴史について説明できる。		8. 専門職に必要な資質について説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 作業療法とは			
2	作業療法における作業とは			
3	障害とは 障害体験準備			
4	障害体験			
5	障害体験発表			
6	作業療法の領域			
7	作業療法実践過程			
8	作業療法評価・記録について			
9	作業療法の歴史			
10	作業療法の理論			
11	作業療法の魅力① (身体障害領域)			
12	作業療法の魅力② (老年期領域)			
13	作業療法の魅力③ (精神障害領域)			
14	作業療法の魅力④ (発達障害領域)			
15	作業療法士に求められる態度・倫理観 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	55%			
レポート・課題	35%	障害体験・歴史・理論のレポート及び「作業療法の魅力」講義後の感想文で評価する		
小テスト				
平常点				
その他	10%	障害体験の発表内容等で評価する		
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 作業療法学概論 第4版	能登真一 編		医学書院	
Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学	上月正博・高橋仁美 編		メジカルビュー社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
「作業」って何だろう 第2版	吉川ひろみ		医歯薬出版	
5W1Hでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書	小川真寛 他編		メジカルビュー社	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。 教科書を読む等の予習をしっかりと行うこと。また、グループワーク、発表には積極的に参加すること。				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法特論 I		演習・講義	大永 寛	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
作業療法士は対象者の話や訴えをよく聞き、対象者の生活をより良くする使命があるが、そのためには対象者とコミュニケーションをとることがその第一歩である。この授業では、医療人として対象者と関わる基礎を身につけ、習得を目指す。				
授業の到達目標				
1. 医療人として望ましい服装、言葉遣いができる。 2. 車いすを安全に操作できる。 3. 対象者の安全に留意できる。 4. 自身の取り組みを内省し、妥当な目標を再設定できる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	目標シート、ポートフォリオ、ノートの取り方			
3	接遇とマナー			
4	友生園 コミュニケーション実習のオリエンテーション			
5	安全管理			
6	車いす操作の基礎①			
7	車いす操作の基礎②			
8	コミュニケーションの基礎			
9	コミュニケーション演習①			
10	コミュニケーション演習②			
11	レクリエーション企画			
12	レクリエーション実施①			
13	レクリエーション実施②			
14	友生園 コミュニケーション実習			
15	友生園 コミュニケーション実習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	提出課題により評価する		
小テスト				
平常点				
その他	70%	ポートフォリオ面接によって評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法特論Ⅱ		演習	大永 寛・淡路 大致	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
この授業では、作業療法士を目指すうえで最低限の技能（コミュニケーション・援助・支援など）習得に向け、演習・グループワークを用いて学ぶ。また半期毎の自身の目標への取り組みを内省し、客観的に自己評価ができるようになることを目指す。				
授業の到達目標				
1. 医療人・職業人として望ましい態度をとることができる。 2. 計画・実施・振り返りのプロセスを経験し、経験の中からの学びや課題について説明できる。 3. 自身の考えや行動などについて論理的に説明ができる。 4. 医療人としての最低限の技能を習得できる。 5. 半期毎の自身の目標への取り組みを内省し、妥当な目標を再設定することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	車椅子駆動介助 OSCE 説明・実技練習			
3	車椅子駆動介助 OSCE 試験			
4	車椅子駆動介助 OSCE 試験			
5	血圧・体温脈拍測定 OSCE 説明・実技練習			
6	血圧・体温脈拍測定 OSCE 試験			
7	血圧・体温脈拍測定 OSCE 試験			
8	自分のキャリアについて			
9	今までの自分を振り返る			
10	今の自分について知る			
11	なりたい自分について考える			
12	自己PR作成			
13	自己PR発表			
14	友生園 コミュニケーション実習			
15	友生園 コミュニケーション実習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	10%	友生園のレポート提出		
小テスト				
平常点				
その他	90%	ポートフォリオ面接（30%）、OSCE（30%）、自己PR発表点（30%）の結果で評価する		
自由記載		再試験はポートフォリオとOSCEで判断する		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				
授業内容は前後もしくは変更することがある。				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
社会福祉学		講義	棚野 恭範	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
福祉・医療・保健の連携の重要性の中で、「ノーマライゼーション・リハビリテーション」理念を基礎に、知識としての「社会福祉学」を単に制度・サービスの紹介・説明にとどまらず、事例を採り入れ、できるだけ身近なものとする。社会福祉関連法規、制度について理解を深め、援助者としての援助観・援助方法も併せて学習することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 社会福祉制度の歴史と考え方を説明できる。 2. 社会福祉制度の体系と意義を説明できる。 3. 障がい者の自立を支える制度の内容を説明できる。 4. 介護保険制度について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	総論Ⅰ 社会福祉学を学ぶ意味、社会福祉の歩み			
2	総論Ⅱ 社会福祉関連法と施設・機関・福祉専門職・キーワード			
3	地域福祉Ⅰ 地域をとりまく課題、地域福祉とは			
4	地域福祉Ⅱ ボランティア活動、阪神淡路大震災と災害ボランティア			
5	グループワークⅠ 社会福祉を考える			
6	社会保障制度Ⅰ 社会保障制度の現状と課題、生活困窮			
7	社会保障制度Ⅱ 生活保護制度、課題解決と法律・制度			
8	子ども家庭福祉Ⅰ 子ども家庭福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
9	子ども家庭福祉Ⅱ 子どもをとりまく現状と課題、ヤングケアラーとは			
10	障がい者福祉Ⅰ 障がい者福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
11	障がい者福祉Ⅱ 障がい者をとりまく現状と課題			
12	高齢者福祉Ⅰ 高齢社会の現状と課題			
13	高齢者福祉Ⅱ 要援護高齢者と介護問題、地域包括ケアシステム、介護保険制度			
14	グループワークⅡ 福祉課題の検討			
15	社会福祉学まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	社会福祉全般にわたる理解内容を評価基準とする		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる社会福祉 第11版	山縣文治・岡田忠克 編		ミネルヴァ書房	
自由記載	レジメ・講義 (参考) 資料を配付する			
備考				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
情報処理演習		演習	岡田 誠暁・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>本授業ではワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを実際に触れながら、各ソフトウェアの基本操作を習得する。また、コンピューターやインターネットを利用する上で必要となる基礎知識についても学習し、安全にコンピューターを使用できることを目指す。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パーソナルコンピューターを用い、レポートなどの基礎的な文書作成ができる。</li> <li>2. 表計算ソフトウェアを使い基礎的な集計やグラフ作成ができる。</li> <li>3. パーソナルコンピューターを用い基礎的なプレゼンテーションの作成ができる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 情報モラルとセキュリティ Windowsの基礎 文字入力の基礎 ファイル・フォルダの管理			
2	ワープロソフトによる基本的な文書作成			
3	ワープロソフトによる図や表の挿入			
4	表計算ソフトによるデータ入力と表作成			
5	表計算ソフトによるグラフ作成			
6	プレゼンテーションソフトによるプレゼンテーションの作成			
7	発表			
8	発表			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	講義への取り組み姿勢、授業態度等		
その他	90%	提出課題および発表		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
Office2019で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快		実教出版	
情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子 他		技術評論社	
自由記載				
備考				
作成文書保存用のUSBメモリを準備してください。				

科目名		授業形態	担当教員名	
心理学		講義	柴田 博美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
心理学は人間の心や行動を客観的に理解しようとする学問です。人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識が身につくように講義だけではなく、心理テスト等の体験学習も行います。心理学の知識をもとに自分自身や他者および社会についての理解を深めていくことを目的とします。				
授業の到達目標				
1. 科学として発展してきた心理学の歴史について説明できる。 2. 心理学の基本的な概念について説明できる。 3. 心理学の知識を日常の様々な体験に関連づけて考えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 授業の目的の説明・心理学とは・心理学の歴史・心理学の方法・自己紹介			
2	感覚・生理心理学・神経心理学			
3	知覚			
4	記憶・認知			
5	学習・行動			
6	覚醒水準・防衛機制・フロイトの精神分析・ユングの分析心理学			
7	動機付け・感情（1）感情とはどのようなものか			
8	ストレス（1）ストレスとはどのようなものか			
9	感情（2）・ストレス（2）感情やストレスに対処するためのワーク			
10	発達心理学（1）子どもの心の発達			
11	発達心理学（2）思春期以降の心の発達			
12	知能			
13	人格・気質			
14	自分とは 自己理解を深める			
15	社会心理学・対人関係			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	選択式の解答方法で、心理学の基礎が身についているか評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載	レジュメ、講義資料を配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
『心理学—心のはたらきを知る—』	梅本・大山・岡本	(株)サイエンス社		
『新・心理学の基礎知識』	中島・繁樹・箱田	株式会社 有斐閣		
自由記載				
備考				



科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害評価学Ⅱ		演習・講義	山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
身体障害領域の作業療法評価の意義、目的、方法について学ぶ。知識と技術の獲得と両者の統合を目指す。				
授業の到達目標				
1. 身体障害領域の作業療法評価で用いる検査・測定（筋緊張評価、形態計測、感覚検査、反射検査）を列挙、説明、実施できる。 2. 筋の視診と触診の意義、目的、方法を説明し、実施できる。 3. 徒手筋力検査を行う意義、目的、方法を説明できる。 4. 徒手筋力検査を正確に測定できる。				
授業計画				
回	内容			
1	筋の視診と触診、筋緊張			
2	徒手筋力検査（MMT）			
3	徒手筋力検査（MMT）			
4	徒手筋力検査（MMT）			
5	徒手筋力検査（MMT）			
6	徒手筋力検査（MMT）			
7	徒手筋力検査（MMT）			
8	徒手筋力検査（MMT）			
9	徒手筋力検査（MMT）			
10	徒手筋力検査（MMT）			
11	徒手筋力検査（MMT）			
12	形態計測、感覚検査			
13	形態計測、感覚検査			
14	形態計測、感覚検査			
15	反射検査			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	40%			
レポート・課題	10%	予習として講義ノートを毎授業で提出する。提出の有無と内容で評価する。		
小テスト	10%	随時小テストを行う。		
平常点				
その他	40%	MMT実技試験で評価する。		
自由記載		再試の場合には筆記試験とMMT実技試験とで採点を行う。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準作業療法学 作業療法評価学 第4版	岩崎テル子 他編	医学書院		
神経診察クローズアップ 改訂第3版	鈴木則宏 編	メジカルビュー		
新・徒手筋力検査法 原著第10版	津山直一 他訳	協同医書		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				
予習が講義参加の前提である。実技がある講義ではKCで参加すること。後期中にMMTの実技試験を行う。				

科目名		授業形態	担当教員名	
人間関係論		講義・演習	富本 隆江	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医療従事者は様々な背景をもつ他者と関わり、人間関係を適切に構築する必要がある。そのためには、まず自分のことを良く知る必要がある（自分の価値観、コミュニケーションの傾向等）。そして、人の多様性を理解し、思いやりの心や他者を尊重する気持ちを持ってコミュニケーションを行うことが重要である。本科目では、コミュニケーションに関する基本的知識と態度を身につけ、協力的に人と関わる体験を通してコミュニケーションの意義と重要性を学ぶことを目的とする。				
授業の到達目標				
1. コミュニケーションの意義と重要性を説明できる。 2. コミュニケーションの方法と技能を説明できる。 3. 相手に関心をもって人の話を聞くことができる。 4. 話し手聞き手の役割りに基づいて適切なコミュニケーションスキルが活用できる。 5. コミュニケーションにより良好な人間関係を築き、このスキルを活用しチームの一員として責任を果たせる。				
授業計画				
回	内容			
1	コミュニケーションの基本 ～良いコミュニケーションとは？専門職のコミュニケーションとは？～			
2	傾聴について ～相手に関心をもって話を聴くとは・傾聴を支える技術～			
3	自分を知る ① ～自己覚知の重要性・交流分析等～			
4	自分を知る ② ～自己覚知の重要性・交流分析等～			
5	多様性を受け入れるために ①			
6	多様性を受け入れるために ②			
7	良いコミュニケーションの為に ① ～表現の仕方等～			
8	良いコミュニケーションの為に ② ～ストレス理解とストレスマネジメント～			
9	良いコミュニケーションの為に ③ ～患者さんの気持ちを感じるために～			
10	信頼関係を構築するためのコミュニケーション ①			
11	信頼関係を構築するためのコミュニケーション ②			
12	感情、怒りのコントロールと適切な表現			
13	チーム・アプローチ ① チームビルディング等			
14	医療におけるコミュニケーション（患者、家族、多職種）～お互いを尊重するとは～			
15	人間関係論の総括 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%	人間関係論についての理解		
レポート・課題	20%	課題に関しては1回目授業にて		
小テスト				
平常点	20%	授業の演習で体験したこと等の感想提出含むので、できるだけ欠席のないようにする		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
コミュニケーション論・多職種連携論	内山靖 他編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				
講義配布資料をもとに実施				

科目名		授業形態	担当教員名	
人間発達学		講義	砂古口 雅子・岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
人間が生涯に渡って発達する存在である『生涯発達』という視点から人を捉えること、および生命の誕生から死に至るまでの量的・質的变化を理解出来るようになることで、人間発達学の知識を臨床や支援の実践に生かす基礎を築くことを目的とする。また、作業療法士として、子どもが示す状態像が年齢相応のものであるかどうかを判断するために必要となる、人間の『身体』『運動』『認知』『心理（情緒）』『社会性』などの定型的な発達過程を知り、各発達段階における発達課題を理解すること。				
授業の到達目標				
1. 原始反射を説明できる。		5. 発達段階における認知機能の特徴を説明できる。		
2. 姿勢反射を説明できる。		6. 幼児期の社会性の発達を説明できる。		
3. 姿勢・移動動作の発達を説明できる。		7. 発達検査の名称を挙げ説明できる。		
4. 目と手の協調の発達を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	授業オリエンテーション			
2	正常発達 年表作り①			
3	正常発達 年表作り②			
4	正常発達 年表作り 発表			
5	「身体・姿勢・移動動作」「認知機能」「言語」の発達（総論）			
6	人間発達学総論（人間発達とは 発達段階について）			
7	胎生期（胎児期）と新生児期の発達			
8	新生児期と乳児期の発達（原始反射と姿勢反応）			
9	乳児期の発達（粗大運動を中心に）			
10	乳児期の発達（微細運動、言語認知、社会性の発達を中心に）			
11	復習テスト 乳児期の発達のまとめ（ビデオ）			
12	幼児期の発達			
13	学童期の発達			
14	発達・知能評価 復習			
15	復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	授業の理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト	30%	問題を解答してもらい、その結果によって評価する		
平常点				
その他	20%	グループワークの参加態度・発表等の内容にて評価する		
自由記載	再試験は筆記試験100%で成績判定を行う			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハビリテーションのための人間発達学 第3版	大城昌平・儀間裕貴		メディカルプレス	
自由記載	必要に応じて、参考資料をプリントにて配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
写真で見る乳児の運動発達	木本孝子 他訳		共同医書出版	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
整形外科 I		講義	大永 寛・久保 周平	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本講義では、すでに修得した解剖学、生理学、運動学の基礎知識を前提とする。特に運動器系の構造理解が重要となるため、講義前半では解剖学や運動学の基礎知識を復習し、運動器の評価および検査法、整形外科的治療法について学び、整形外科疾患の中で外傷性疾患について理解することを目指す。				
授業の到達目標				
1. 運動器の評価、検査方法を説明できる。 2. 整形外科的治療法について説明できる。 3. 骨折について説明できる。 4. 関節における外傷性疾患を説明できる。 5. 末梢神経における外傷性疾患を説明できる。 6. 腱・靭帯における外傷性疾患を説明できる。 7. 脊椎疾患を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	整形外科基礎知識①：骨、関節 【大永】			
2	整形外科基礎知識②：筋、神経 【大永】			
3	運動器の評価および検査法 【大永】			
4	整形外科的治療法 【大永】			
5	外傷性疾患 概論 骨折とは 骨折の各論①：体幹の骨折 【久保】			
6	骨折の各論②：上肢の骨折 【久保】			
7	骨折の各論③：下肢の骨折 【久保】			
8	関節における外傷性疾患 捻挫と脱臼 【久保】			
9	末梢神経における外傷性疾患 概論 神経損傷とは 【久保】			
10	末梢神経における外傷性疾患 各論①：腕神経叢麻痺、橈骨神経麻痺 【久保】			
11	末梢神経における外傷性疾患 各論②：尺骨神経麻痺、正中神経麻痺、腓骨神経麻痺 【久保】			
12	末梢神経における外傷性疾患 各論③：絞扼性神経障害、その他の末梢神経障害 【久保】			
13	腱・靭帯における外傷性疾患 【久保】			
14	脊椎疾患①：脊椎の種々の疾患、加齢による変形性脊椎症 【久保】			
15	脊椎疾患②：脊柱の変形、後縦靭帯骨化症、脊椎の奇形 【久保】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	授業の理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科 第5版	立野勝彦・染矢富士子	医学書院		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版	野村巖 編	医学書院		
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価	宮越浩一 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準整形外科学 第14版	井樋栄二 他 編	医学書院		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生物学		講義	沖田 章子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
幅広い生物学の中で、医療系の学生として学ばなければならない大きな2つの柱「生物の原理」と「ヒトに関する基本」を修得する。そして、生物学への興味を深め、専門課程を理解できる基礎力をつけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 細胞の構造と機能を説明できる。2. 遺伝子とは何かを説明できる。3. 発生のしくみを説明できる。 4. 神経のしくみを説明できる。5. 代謝のしくみを説明できる。6. 免疫のしくみを説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 学習の進め方 生物とは何か			
2	現代を生きる生命 細胞とDNA			
3	現代を生きる生命 ゲノム			
4	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生			
5	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生と遺伝子			
6	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 遺伝子と科学技術			
7	感じ、動くためのしくみ 感覚と神経			
8	感じ、動くためのしくみ 神経系			
9	生きるためのしくみ 代謝			
10	生きるためのしくみ 循環			
11	子孫を増やすしくみ 生殖			
12	環境に適応するしくみ 外的環境への適応			
13	環境に適応するしくみ 免疫			
14	生命が社会を営むしくみ 社会性を生み出す脳			
15	問題演習とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	生物の基礎となるしくみを理解できているかを評価する		
レポート・課題	20%	授業内容の理解度と課題に取り組む姿勢をもとに評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
みんなの生命科学 第2版	北口哲也・塚原伸治・坪井貴司 前川文彦	化学同人		
フォトサイエンス生物図録 新課程改訂版		数研出版		
自由記載	講義資料、図録に沿ったプリントを配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				
予習として教科書や図録を用いて生物用語の確認をしておくこと、日常生活の中で医療や科学の話題に関心を持つことを希望する。				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学 I		講義	山本 翔太	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
人体では生命維持活動(呼吸・循環・消化吸収・排泄)、外界からの刺激に対する反応や働きかけ(感覚・運動)が絶え間なく行われている。また、これらを調節、統合するために、神経系や内分泌系が動いている。これらの基本的な正常機能を理解し、生命現象への理解を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 細胞の構造と機能について説明できる。		5. 血管系について説明できる。		
2. 神経系の構成とニューロンの働きについて説明できる。				
3. 各種感覚の神経機構を説明できる。				
4. 筋の収縮の仕組みと運動神経による調節の仕組みを説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 生命現象と人体			
2	細胞の構造と機能			
3	静止膜電位と活動電位			
4	神経の興奮伝導と末梢神経			
5	中枢神経系① 総論、大脳			
6	中枢神経系② 間脳、脳幹、意識、脳波、睡眠			
7	中枢神経系③ 小脳、脊髄			
8	末梢神経：脳神経、脊髄神経、反射			
9	運動系 筋と骨、筋収縮の仕組み			
10	感覚器系① 感覚の意義と分類、体性感覚			
11	感覚器系② 視覚			
12	感覚器系③ 聴覚と平衡覚			
13	感覚器系④ 嗅覚、味覚			
14	循環系① 心臓			
15	循環系② 血管系(動脈、静脈、毛細血管)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	課題提出にて評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版	岡田隆夫 他		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能	医療情報科学研究所		メディックメディア	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学Ⅱ		講義	山本 翔太	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
人体では生命維持活動（呼吸・循環・消化吸収・排泄）、外界からの刺激に対する反応や働きかけ（感覚・運動）が絶え間なく行われている。また、これらを調節、統合するために、神経系や内分泌系が動いている。これらの基本的な正常機能を理解し、生命現象への理解を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 血液循環調節について説明できる。 2. 呼吸の仕組みについて説明できる。 3. 消化と栄養の吸収について説明できる。 4. 尿生成と排尿について説明できる。 5. 内分泌機能について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	血液① 血液の組成と機能、赤血球、血小板			
2	血液② 血漿、血液型、リンパ系			
3	生体防御① 白血球			
4	生体防御② 身体の防御機構			
5	呼吸とガスの運搬① 外呼吸と内呼吸、呼吸運動、呼吸気量			
6	呼吸とガスの運搬② ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節			
7	尿の生成と排泄① 腎臓の役割、尿の生成			
8	尿の生成と排泄② 酸塩基平衡			
9	消化と吸収① 消化器の役割、口腔内消化と嚥下、胃・十二指腸における消化			
10	消化と吸収② 小腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割			
11	栄養と代謝① 三大栄養素と代謝			
12	栄養と代謝② エネルギー代謝			
13	内分泌① ホルモンの役割			
14	内分泌② 各腺から分泌されるホルモンの作用			
15	内分泌③ まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	課題の提出と内容にて評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版	岡田隆夫 他		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能	医療情報科学研究所		メディックメディア	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学Ⅲ		講義	石井 禎基	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>生体には調節系が備わっていて、いろいろな外界の環境条件や身体の活動に対して、基本的な生理的条件を常に最適な範囲内に保つようにコントロールされている。 本講義では、運動にともなう身体の生理学的変化を理解し、その調節のメカニズムを説明できることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 健康・体力について説明できる。 2. 運動・恒常性について説明できる。 3. 運動時の体液調節を説明できる。 4. 運動時の体温調節を調節を説明できる。 5. 運動時の呼吸機能の変化とその調節を説明できる。 6. 運動時の心臓機能の変化とその調節を説明できる。 7. 運動が筋に及ぼす影響を説明できる。 8. 運動とエネルギー代謝について説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	健康・体力とは何か それらはどのような関係性か			
2	運動とは何か ホメオスタシス (恒常性) とは何か			
3	運動による体液の変化はどのように調節されているのか (1)			
4	運動による体液の変化はどのように調節されているのか (2)			
5	運動による体温の変動はどのように調節されているのか (1)			
6	運動による体温の変動はどのように調節されているのか (2)			
7	運動に呼吸機能がどのように対応し、どのように調節されているのか (1)			
8	運動に呼吸機能がどのように対応し、どのように調節されているのか (2)			
9	運動に心臓機能がどのように対応し、どのように調節されているのか (1)			
10	運動に心臓機能がどのように対応し、どのように調節されているのか (2)			
11	運動が骨格筋にどのような影響を及ぼすのか (1)			
12	運動が骨格筋にどのような影響を及ぼすのか (2)			
13	運動を行うためにエネルギー代謝はどのように行われているのか (1)			
14	運動を行うためにエネルギー代謝はどのように行われているのか (2)			
15	総括・まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	講義内容の理解を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	30%	授業態度を評価する		
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
図説 運動の仕組みと応用	中野昭一	医歯薬出版		
自由記載	必要なときは講義資料を配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
ネッター 解剖生理学アトラス	相磯貞和・渡辺修一	南江堂		
解剖生理をおもしろく学ぶ	増田敦子監修	医学芸術社		
自由記載				
備考				
復習を心がけて下さい。				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学演習		演習・講義	沖田 章子・田中 靖人・岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
前期の生理学Ⅰで学んだ「皮膚感覚」「循環機能」「平衡機能」について、演習を通じて理解を深める。各テーマ毎に班に分かれ、実験を行った後、実験結果をレポートにまとめ、考察を加える。				
授業の到達目標				
1. 各実習の手順を理解し、できるだけ正確なデータが取れるよう配慮する点について説明できる。 2. レポートは指定された形式を守り、表現は簡潔で、他者が読んで分かりやすい表現をすることができる。 3. 教科書の知識と実習結果を比較し、自身の考察を導くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	岡田担当：講義と重心動揺計の操作練習			
2	岡田担当：平衡機能の実験①			
3	岡田担当：平衡機能の実験②			
4	岡田担当：実験結果の整理とまとめ、講義			
5	レポートのまとめと知識の整理			
6	沖田担当：皮膚感覚の実験内容の理解、実験器具作り			
7	沖田担当：感覚点の測定①			
8	沖田担当：感覚点の測定②			
9	沖田担当：二点弁別閾の測定			
10	沖田担当：実習の考察、グラフ・図・レポートのまとめ			
11	レポートのまとめと知識の整理			
12	田中担当：心拍・血圧の測定練習、循環機能について			
13	田中担当：PWCテスト（全身持久力の測定、心拍数、血圧の反応）			
14	田中担当：実験結果の整理とまとめ、講義			
15	レポートのまとめと知識の整理			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	各担当毎に実験結果をレポートにまとめる。提出期限は厳守すること。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載		実習中心の授業となりレポート評価のため、再試験は実施しません。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 解剖学	野村巖 編	医学書院		
基礎運動学 第7版	中村隆一 他	医歯薬出版		
標準理学療法学・作業療法学 生理学	岡田隆夫 他	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				
レポートの作成は、将来、作業療法士となり、報告書やカルテ記入の業務において、事実や考えを簡潔に述べることに通じるものであるから、その手法を身に付けてもらいたい。				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神医学 I		講義	淡路 大致	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>現代の疾病構造としても、精神疾患の理解は重要である。精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、その領域は広い。 本講では、精神的な病気を理解するために必要な、精神症状学を中心とした基礎知識を身に付けることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 精神科医療の歴史と現状について比較し、それぞれの違いを説明できる。 2. 精神障害の成因と分類が説明できる。 3. 精神疾患に特有な各精神症状について説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	精神医学とは			
2	精神保健医療の歴史と現状			
3	精神保健医療の歴史と現状			
4	精神障害の成因と精神発達			
5	意識・注意			
6	知覚			
7	知能・発達			
8	記憶			
9	思考			
10	自我			
11	感情			
12	興味・関心・意欲			
13	精神分野の治療法 (薬物療法以外)			
14	薬物療法			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト	30%	4-15講義の開始時に行う。		
平常点				
その他				
自由記載		再試験はテスト100%で実施する。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
こころの健康がみえる	医療情報科学研究所	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 精神医学	上野武治	医学書院		
標準精神医学 第8版	尾崎紀夫 編集 他	医学書院		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
内科学 I		講義	澤田 勝寛・岡田 誠暁・山本 翔太	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本講義では、内科の主要な疾患とその治療などについて理解することを目的とする。具体的には各臓器の解剖、生理に関する知識の復習を行い、主要疾患の病態生理、病理、症状、治療方法、予後などについて学習する。				
授業の到達目標				
1. 主な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について説明できる。 2. 代表的な消化器疾患について、その病態生理、症状を説明できる。 3. 代表的な腎・泌尿器疾患について、その病態生理、症状を説明できる。 4. 加齢に伴う生理機能、運動機能、精神心理面の変化を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	内科学とは、内科的診断と治療の実際、症候学【山本】			
2	循環器疾患①：心臓に関する基本的な解剖学的・生理学的事項の確認【山本】			
3	循環器疾患②：心臓に関する代表的な疾患【山本】			
4	循環器疾患③：血管に関する基本的な解剖学的・生理学的事項の確認【山本】			
5	循環器疾患④：血管に関する代表的な疾患【山本】			
6	循環器疾患⑤：まとめ【山本】			
7	消化器疾患①：消化器に関する基本的な解剖学的・生理学的事項の確認【澤田】			
8	消化器疾患②：消化器に関する代表的な疾患①【澤田】			
9	消化器疾患③：消化器に関する代表的な疾患②【澤田】			
10	腎、泌尿器の生理と病態、検査法【澤田】			
11	糸球体疾患、腎不全など【澤田】			
12	老年期の特徴【岡田】			
13	老年症候群①【岡田】			
14	老年症候群②【岡田】			
15	認知症【岡田】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第5版	前田眞治・上月正博・飯山準一	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
ハリソン内科学 第5版	福井次矢監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル		
病気が見える シリーズ 最新版	医療情報科学研究所	メディックメディア		
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学概論		講義	宮下 久美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
人体の病的な状態について講義する。病気の成り立ち、先天異常、代謝障害、循環障害などの総論について講義する。				
授業の到達目標				
病気の成り立ちや病的変化を学習することで、人体の正常状態と病的状態の違いを理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	病気の原因・細胞障害			
2	細胞の損傷と適応			
3	炎症			
4	免疫			
5	アレルギー・自己免疫疾患・移植			
6	循環障害			
7	出血・血栓			
8	ショック・播種性血管内凝固症候群（DIC）			
9	代謝傷害			
10	先天異常と遺伝子異常			
11	遺伝性疾患と染色体異常による疾患			
12	腫瘍			
13	感染症			
14	老化			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%			
レポート・課題	40%	单元ごとにレポートを提出してもらい、その内容により理解度を評価します。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進①	坂本穆彦		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
福祉用具学		講義・演習	嘉納 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>作業療法士は、福祉用具の専門家でもある。対象者の機能と環境を評価し福祉用具を選定するためには、用具の特性や使用方法を知っておく必要がある。演習を通して学習していく。また、介護保険における福祉用具貸与・購入制度についても学習する。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準的な福祉用具を列挙し、特徴を説明できる。</li> <li>2. 福祉用具を導入する際の留意点を説明できる。</li> <li>3. 福祉用具の適応について説明できる。</li> <li>4. 介護保険制度について説明できる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	福祉用具について			
2	自助具について			
3	整容・更衣、入浴、排泄			
4	食事、家事、余暇活動			
5	起居・床上			
6	移乗			
7	移動			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	20%	自助具レポートで評価する		
小テスト				
平常点				
その他	10%	講義内容についての予習で評価する		
自由記載		再試験は筆記試験を100%として成績判定する		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
新版 日常生活活動（ADL）第2版	伊藤利之・江藤文夫 編		医歯薬出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備	木之瀬隆 編		協同医書	
自由記載				
備考				
演習を行うので、動きやすい服装で参加すること。教科書を読む等の予習をしっかりと行うこと。				

科目名		授業形態	担当教員名	
物理学		講義	堀越 圭子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
物理学とは、自然界の現象、仕組みや法則性を観察や実験を通して解き明かそうとする学問であるゆえ、私達の生活とも深く密着している。そこで、私達が日常生活で見逃している現象をズームアップして「親しみやすい物理学」を目指し、学習する。				
授業の到達目標				
1. 力のつりあい、物体運動について説明できる。 2. 人体の平衡や安定性について、力学の概念を用いて説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	誤差と有効数字と色々な力			
2	色々な力			
3	剛体のつりあい(1)			
4	剛体のつりあい(2)			
5	力と運動(1)			
6	力と運動(2)			
7	仕事と力学的エネルギー			
8	テスト予想問題と解説			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	授業内容の総理解力の評価		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	20%	講義への取り組み態度の評価		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自然科学の基礎としての物理学	原康夫		学術図書出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育		実技・講義	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>様々なスポーツ種目の実践を通し、スポーツの楽しさを味わったり、クラスメートとの親睦を図れることを目指したい。</p> <p>また、スポーツの必要性や安全面を理解し実践に活かせる態度を養成することや、健康とスポーツに関連するトピックについて講義を通して、スポーツへの興味や関心を高めさせたい。</p>				
授業の到達目標				
スポーツをすることの意義を知り、身体を動かすことの楽しさを味わうこと、健康やスポーツについて、興味関心を深めることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	講義：スポーツ活動における我が国の現状			
2	実技：ニュースポーツ1-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
3	実技：ニュースポーツ1-2			
4	実技：球技1-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
5	実技：球技1-2			
6	実技：球技1-3			
7	講義：減量について考える			
8	実技：球技2-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
9	実技：球技2-2			
10	実技：球技2-3			
11	講義：熱中症とその予防			
12	実技：ニュースポーツ2-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
13	実技：ニュースポーツ2-2			
14	実技：ニュースポーツ2-3			
15	講義：健康づくりのために必要なもの			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	進捗や講義内容によっては、レポートに置き換えることがある。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある			
備考				
<p>実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグランドや講堂には持ってこないこと。</p> <p>けがや病気等で実技ができない場合は報告・相談すること。</p> <p>天候や進捗、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。</p>				

科目名		授業形態	担当教員名	
倫理学		講義	木村 和弘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>保健医療福祉の現場における倫理的問題、主に生命倫理（健康と病気、医療問題）について学びます。事例を通して、現代社会における具体的な問題（脳死・臓器移植・安楽死・意思決定支援等）について考えます。自分で考え、考えを述べることを大切にします。また、他者の意見を尊重し、様々な考えがあることを認めながら、共に考え、医療関係者としてあるべき姿を考えることを目的とします。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 医療技術の進歩と、そこで起きている倫理的問題について説明できる。  2. 将来、実践現場で出会うであろう倫理的課題について、柔軟に考え、自分の考えを述べることができる。  3. 自分の「考え方の傾向」を知る。「他者の意見を尊重」する。これを大切に話し合いができるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	なぜ、生命倫理を学ぶのか？ ～ 究極の選択「あなたなら、どうする？」～			
2	職業倫理から生命倫理を考える。～ 「ヒポクラテスの誓い」と「生命倫理の原則」～			
3	患者に本当のことを伝えるべきか否か？～ 「インフォームド・コンセント」「知る権利、知らないでいる権利」～			
4	超高齢社会の倫理的問題その①～ 少子高齢多死社会における倫理的課題～			
5	超高齢社会と倫理的問題その②～ 「身体拘束廃止」と、「高齢者虐待防止」～			
6	超高齢社会と倫理的問題その③～ その他、高齢者の支援場面で起こりうる倫理的課題～			
7	移植医療について考える。～ 脳死と臓器移植～			
8	出産と生殖補助医療について考える。～ ①胎児の権利 ②代理出産 ③一人の子どもに5人の親～			
9	夢の医療技術と医療倫理について考える。～ 「クローン技術」、「ヘルシンキ宣言」その他～			
10	死について考える。～ 安楽死と尊厳死、延命治療、緩和ケア、リビングウィル、その他～			
11	ターミナルケア～ ①患者と患者家族の気持ちを考える ②ACPIについて～			
12	多職種連携で大切なこと～ 患者・家族の価値観を大切にすること～			
13	生命倫理の課題を考える上で大切なこと～ 生命倫理の原則 ①原則論 ②手順論 ③物語論～			
14	倫理の基本理論と自己覚知について～ 行為論と義務論、QOLとSOL、医療スタッフに必要な心構え～			
15	全体のまとめ～ 倫理が問われる時代にどのようにあるべきか～			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	40%	選択式問題と、論述問題を出题します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	30%	毎回、個人ワーク、グループ討議を行います。取り組みの姿勢、学びについて評価します。		
その他	30%	毎回、講義の最後に「今日の学び」というミニレポートを書きます。その内容による評価です。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
生命倫理学入門 第5版	今井道夫	産業図書		
自由記載	テキストは補助的に使用。毎回テーマに合わせて資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床心理学		講義	柴田 博美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
臨床心理学は心や行動に問題を抱えた人の悩みを和らげ再び健全な生活を送れるよう援助する実践的な学問である。この講義では、人の発達年代によって見られる問題と精神疾患の症状を理解したうえで、心理学的な見方とアプローチについて学習する。 主に講義形式で行うが、時にグループワーク等も行う。				
授業の到達目標				
1. 発達年代別にみられる問題とアプローチの仕方を説明できる。 2. 代表的な精神疾患や心理的な問題、援助者の関わり方を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス ・臨床心理学とは・病、障害とは・臨床心理学的援助・自分の強みを知る			
2	発達(1) 児童虐待			
3	発達(2) 思春期 (不登校・ひきこもり・家庭内暴力)			
4	発達(3) 青年期～中年期 摂食障害・中年期の危機			
5	発達(4) 老年期 心の特徴・認知症			
6	神経発達症 (発達障がい)			
7	うつ、そううつと心と手あて・認知のゆがみ・認知行動療法			
8	統合失調症の心			
9	パーソナリティ障害の心と対応			
10	神経症 精神分析的な見方・手あて			
11	依存・依存症			
12	トラウマ・ストレス			
13	喪失による心理的な影響・障がい受容			
14	いじめ・ハラスメント・Intimate Partner Violence (IPV)			
15	心のSOSの気づきと対応・自殺・おさらい			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
一般臨床医学 I		講義	嘉納 綾・林田 健	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
この科目では、健康の概念を理解し、日常生活の中での健康の維持・増進を図るための健康管理及び疾病予防について習得する。 また、救急医学の概要を理解するとともに、医療現場で遭遇するであろう事故に対応するため、一次救命処置 (AEDの使用法を含む) について学ぶ。				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>健康と疾病の概念を説明できる。</li> <li>標準予防策について説明できる。</li> <li>ライフスタイルと健康との関連について説明できる。</li> <li>メンタルヘルスについて説明できる。</li> <li>ストレスマネジメントの具体的方法を説明できる。</li> <li>臨床検査値から身体の変化について説明できる。</li> <li>救急医療体制について説明できる。</li> <li>一次救命処置の流れおよび心肺蘇生の方法を説明できる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	健康と疾病について 標準予防策について【嘉納】			
2	ライフスタイルと健康【嘉納】			
3	メンタルヘルスとストレスマネジメントについて【嘉納】			
4	健康指導について 健診結果の見かたについて【嘉納】			
5	救急医療体制と搬送システム【嘉納】			
6	AED【林田】			
7	BLS【林田】			
8	救急医療【林田】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%	嘉納担当範囲		
レポート・課題	30%	林田先生担当範囲		
小テスト				
平常点				
その他	10%	講義や実技への参加態度で評価する		
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学	上月正博・高橋仁美 編		メジカルビュー社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
一般臨床医学Ⅱ		講義	岩井 克磨・末安 朋雄・郡司嶋 一輝 山寄 統子・嘉納 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この科目では、診断や評価で重要となる画像診断の基礎と専門的な治療（酸素療法・人工透析）について学ぶ。また、リハビリテーションと関連する産婦人科や皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科などの疾患について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. X線撮影、CT撮影、MRI撮影、超音波、血管造影について説明できる。 2. 酸素療法、人工透析について説明できる。 3. 眼疾患、視覚障害について説明できる。 4. 産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、症状、治療法を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	レントゲンとCTの基礎			
2	MRIの基礎			
3	画像診断のまとめと解説			
4	酸素療法について			
5	人工透析について			
6	眼疾患、視覚障害について			
7	婦人科・産科疾患			
8	皮膚科疾患、耳鼻咽喉科疾患			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	講義内容についての自己学習で評価する		
自由記載		再試験は筆記試験を100%として成績判定する		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価	宮越浩一 編		医学書院	
PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版	明石謙 編集		医歯薬出版	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
観察実習		実習	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
45 時間（1 単位）		回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
観察実習では、2年前期までに学習した知識・技術を統合し、臨床の場で作業療法の実践を学ぶ。具体的には、実習施設において臨床教育指導者の臨床場面の見学を通し、どのような対象者がいて何を目標にどのような治療を実施しているのかを理解する。また、各施設における作業療法の機能・役割を理解する。				
授業の到達目標				
1. 実習生として適切な態度や行動をとることができる。 2. 経験したこと・学んだことを記録・報告できる。 3. 観察した事実から、個々の問題点を説明できる。 4. 施設・物品の管理の手伝いができる。 5. 施設の特性とその施設における作業療法士の役割を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
	オリエンテーション			
	観察実習			
	実習期間：令和7年8月27日～9月2日			
	実習施設：病院、老人保健施設など学校が依頼し決定した施設			
	実習形態：同一施設で臨床教育指導者の指導のもと作業療法実践現場や関係部署の見学を行う			
	詳細については、オリエンテーション時に伝える			
	実習セミナー			
	施設での作業療法士の役割や治療・介入の目的などについての発表			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習内容・実習セミナーで総合的に評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
令和7年度観察実習の手引き（神戸総合医療専門学校 作業療法士科）				
自由記載				
備考				
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため、感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理につとめ、特に実習期間は健康に留意すること。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の抗体値が基準を満たしていることが、実習に参加する条件である。				

科目名		授業形態	担当教員名	
義肢装具学		講義	大庭 潤平・嘉納 綾 鮫島 一雄・谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>義手・義足・装具は作業療法にとって重要な分野であり、その知識と技術は患者、障害者の障害を軽減することに役立つ大切な手段である。そのため義肢装具は障害者の機能および形態の代償・補填に重要な役割を持っている。義肢装具に関する基礎知識を身につけ、各種疾患・障害に対する義肢装具の重要性を理解することを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 義手の種類・機能・適応を説明できる。 2. 義手のチェックアウト項目を説明できる。 3. 装具の種類・機能・適応を説明できる。 4. 福祉・保健制度の動向、技術革新についても理解できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	義手の総論【大庭】			
2	上肢切断と義手【大庭】			
3	義手の種類と構成部品【大庭】			
4	義手の適合範囲とその対応【大庭】			
5	義手の操作方法と指導方法【大庭】			
6	先天性上肢欠損児に対する義手適応【大庭】			
7	上肢装具総論【嘉納】			
8	上肢装具各論①関節リウマチ【嘉納】			
9	上肢装具各論②頸髄損傷【嘉納】			
10	上肢装具各論③末梢神経損傷【嘉納】			
11	上肢装具各論④熱傷【嘉納】			
12	上肢装具各論⑤その他【嘉納】			
13	下肢装具・体幹装具について①【谷】			
14	下肢装具・体幹装具について②【谷】			
15	義足について【鮫島】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
義肢装具と作業療法 - 評価から実践まで -	大庭潤平 他	医歯薬出版株式会社		
標準作業療法学 身体機能作業療法第4版	山口昇 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
義肢装具のチェックポイント	日本整形外科学会	医学書院		
切断と義肢	澤村誠志	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
高次脳機能障害治療学		講義・演習	中田 修	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
血管障害や頭部外傷など、脳の病変や損傷によって引き起こされる高次脳機能障害は、さまざまなADLの阻害要因となることが知られており、作業療法目標の設定や治療計画立案時に考慮すべき重要な要素の一つである。この授業では作業療法士として臨床に必要な知識である高次脳機能障害の定義、症状と発現メカニズム、症状および障害の見方とその評価および具体的な治療方法を学ぶ。				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳機能障害の各症状の定義を説明することができる。</li> <li>2. 高次脳機能障害の各症状の発現メカニズムを説明することができる。</li> <li>3. 作業療法における高次脳機能障害の障害別評価方法を実践することができる。</li> <li>4. 高次脳機能障害に対する作業療法介入を症状別に説明することができる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	高次脳機能障害の概略			
2	意識と注意の障害			
3	失語症とコミュニケーション障害			
4	失行とその評価			
5	失認とその評価			
6	記憶障害とその評価			
7	前頭葉損傷			
8	高次脳機能障害における作業療法評価1			
9	高次脳機能障害における作業療法評価2			
10	高次脳機能障害の簡易評価バッテリー実践1			
11	高次脳機能障害の簡易評価バッテリー実践2			
12	高次脳機能障害の評価バッテリーの解釈			
13	高次脳機能障害に対する作業療法介入1			
14	高次脳機能障害に対する作業療法介入2			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	上記の授業の到達目標がどの程度達成できたかで評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	授業態度や出席で評価する		
その他	10%	後半の簡易バッテリーの実践で行う小グループでの発表会の内容で評価する		
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
作業療法全書 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害	渕雅子 編集		協同医書出版社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				



科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法管理学Ⅱ		講義	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
保健・医療・福祉に関する制度(医療保険・介護保険制度を含む)を理解し、作業療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。				
授業の到達目標				
1. 理学療法士及び作業療法士法について説明できる。		5. 医療観察法、精神保健福祉法について説明できる。		
2. 作業療法士の職業倫理・研究倫理について説明できる。		6. 作業療法臨床実習で求められる学生の資質を列挙できる。		
3. 医療保険制度、介護保険制度について説明できる。		7. 日本作業療法士協会の生涯学習制度について説明できる。		
4. 地域包括ケアシステムについて説明できる。		8. QUESTについて説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	作業療法の役割と職域【嘉納】			
2	作業療法の職業倫理【嘉納】			
3	医療保険制度【嘉納】			
4	介護保険制度、地域包括ケアシステム【岡田】			
5	医療観察法、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律【淡路】			
6	作業療法臨床実習の理解と管理体制【嘉納】			
7	作業療法士のキャリア開発【嘉納】			
8	作業療法の質の評価について【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト	100%			
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を行う			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業療法管理学 第3版	大庭潤平 編	医歯薬出版		
標準作業療法学 作業療法概論 第4版	能登真一 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法特論Ⅲ		演習	井上 直樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
2年生の前期後半に行われる観察実習を見据えて、作業療法士に要求される①論理的思考を行うこと②正確な記録を行うこと③記録内容から考察すること④思考内容を文章化すること⑤姿勢・動作分析を行えるようにすることの5点が可能となることを目指す。具体的には論理的思考と言語化を行う課題を反復して行った後に、対象者の姿勢や動作を観察し記録する。また、観察した現象がなぜ起こっているのかについて作業療法の視点から記録と分析を行うことで臨床思考過程の一部を学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 医療人・社会人として望ましい考え方・態度をとる事ができる。 2. 問題（課題）に直面した際に適切な解決方法が選択できる。 3. 観察・経験した内容について説明ができる。 4. 学習した過程・内容を他者に具体的に表現できる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション/目標シートについて			
2	ロジカルシンキングとラテラルシンキング			
3	ロジカルシンキングと因果関係図			
4	因果関係図の文章化			
5	思考内容を他者にわかりやすく伝える技術			
6	姿勢分析（臥位）			
7	姿勢分析（座位）			
8	姿勢分析（立位）			
9	動作分析（起立動作）①			
10	動作分析（起立動作）②			
11	動作分析（起立動作）③			
12	精神障害分野の観察・評価ポイント			
13	精神障害分野の観察・評価ポイント			
14	精神障害分野の観察・評価ポイント			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	60%	課題の内容で評価を行う。		
小テスト				
平常点				
その他	40%	ポートフォリオ面接にて評価を行う。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
授業の予定は、前後変更する可能性がある。変更の場合は随時通知する。				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法特論Ⅳ		演習	井上 直樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この講義では、評価実習や臨床実習で必要とされる、①エビデンスに基づいた作業療法介入②対象者の人生を幅広く捉えるために必要な視点や考え方、の2つを習得することを目指す。これら2つの視点が欠けていると、対象者目線での作業療法を提供することはできない。「対象者に寄り添い、その人らしい生活を支えること」とは一体どのようなことなのか、この講義を通して考えを深め、理解してほしい。				
授業の到達目標				
1. 文献を活用する重要性がわかる。 2. 文献の探し方がわかる。 3. 文献の活用方法がわかる。 4. 臨床現場で作業療法学生が陥りやすい思考の偏りについて言語化できる。 5. 自分の考えや知識を他者にわかりやすく伝えることができる。 6. 順序だてた計画を立てることができる。 7. 結果を客観的かつ論理的に分析することができる。 8. 自分の成長を報告することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	文献抄読とエビデンス①（文献を活用する意義・文献の探し方）			
3	文献抄読とエビデンス②（主張を支持する文献を探し、まとめる）			
4	文献抄読とエビデンス③（主張を支持する文献を探し、まとめる）			
5	ケーススタディ①（架空の対象者情報から考える その1）			
6	評価実習にむけて			
7	ケーススタディ②（架空の対象者情報から考える その2）			
8	ケーススタディ③（架空の対象者情報から考える その3）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%	授業中に提示する課題の提出状況および内容で評価する。		
小テスト				
平常点				
その他	50%	ポートフォリオ面接にて評価する。		
自由記載	再試験は筆記試験を行う。評価方法の割合は、ポートフォリオ面接40%、筆記試験60%である。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
授業内容や順番は変更する可能性がある。その際は口頭および書面にて通知します。 臨床現場に立つ作業療法学生として、ふさわしい行動や態度で臨んでください。				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法臨床技能演習		演習・講義	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
評価実習・長期実習を見据え、実際の患者を想定した状況で検査や面接の課題に取り組み、実践能力の向上を目指す。検査や面接技法に併せて、臨床に望ましい身なりや態度、マナーについての習得状況も確認する。				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習生として相応しい身なりと態度で模擬患者に接し、良好な関係を構築することができる。</li> <li>2. 模擬患者に対して適切な動作の誘導・介助、評価を実施することができ、得られた結果を報告することができる。</li> <li>3. 臨床技能や対象者への接遇などの自己の問題点を認識し、それに対する改善策を述べるすることができる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション、課題内容に基づいた実技演習（課題1）①			
2	課題内容に基づいた実技演習（課題1）②			
3	課題内容に基づいた実技演習（課題2）①			
4	課題内容に基づいた実技演習（課題2）②			
5	課題内容に基づいた実技演習（課題3）①			
6	課題内容に基づいた実技演習（課題3）②			
7	課題内容に基づいた実技演習（課題4）①			
8	課題内容に基づいた実技演習（課題4）②			
9	課題内容に基づいた実技演習（課題5）①			
10	課題内容に基づいた実技演習（課題5）②			
11	課題内容に基づいた実技演習（課題6）①			
12	課題内容に基づいた実技演習（課題6）②			
13	まとめ			
14	臨床技能試験①			
15	臨床技能試験②			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	30%	定期試験（詳細は授業内で提示する）		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	70%	臨床技能試験（詳細は授業内で提示する）		
自由記載	再試験は、実技試験70% 筆記試験30%で判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
PT・OT のための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編	才藤栄一		金原出版	
PT・OT のための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編	才藤栄一		金原出版	
自由記載				
備考				
授業内容や順序は変更する場合があります。その場合は事前に通知します。				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
小児科学		講義	砂古口 雅子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>医療の進歩はめざましく、500g以下で出生した子ども達も延命できる時代となり、残念ながら障害が残る場合がある。従来であれば短命であった難病の子ども達も障害を持ちながら生存できるようになり、重症心身障害児や医療的ケア児は増加している。また、虐待や事故などで心を含めて障害を負うこともある。臨床現場で小児に携わるようになったとき、子ども達の障害の背景にある疾患についての理解を深められるようになること、親子関係を含めた小児の全体像を見ることができ、子ども達の生活障害を改善できる一助となることを目的に、授業を進める。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の定型発達児の発育・発達の特徴を説明できるようになること。</li> <li>2. 各種小児疾患の原因や病態について理解し、その特徴について説明できるようになること。</li> <li>3. 1と2で得た知識をもとに小児の作業療法を実践するときの対応について説明できるようになること。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	小児科学概論（主に小児の成長・発育と定型発達について、原始反射と姿勢反射、療育と学校コンサルテーション）			
2	新生児・未熟児の概念と疾患（新生児仮死、未熟児、新生児・周産期異常症状など）			
3	先天異常と遺伝病（主に遺伝と病気について、染色体疾患など）			
4	復習と小テスト①			
5	神経・筋疾患①脳性麻痺（まひの分類と症状など）			
6	中枢神経感染症、重症心身障害児と医療的ケア児について			
7	児童虐待、事故 その他			
8	総復習			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	終了試験の結果によって評価する		
レポート・課題				
小テスト	40%	問題を解答してもらい、その結果によって評価する		
平常点	10%	授業への参加態度や予習復習等によって評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第6版	前垣義弘・小倉加恵子	医学書院		
自由記載	必要に応じて、参考資料はプリントにて配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
写真で見る乳児の運動発達、	木本孝子 他訳	協同医書出版社、1998		
ボバース概念の実践ハンドブック	紀伊克昌 他	パンフィックサプライ、2004		
自由記載	必要に応じて、紹介する			
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
職業関連活動		講義	嘉納 綾・淡路 大致・中田 修・大谷 将之 小川 美幸・笹井 久嗣・角谷 哲生	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この講義では、人にとって働くということにどのような意味があるかを知り、職業リハビリテーションの概念および理論を学ぶ。また、就労支援者に必要な態度・価値観、就労支援に必要な基礎知識・技術等とともに関連制度やサービス等の社会資源について学び、作業療法士が就労支援で担うべき役割について理解する。				
授業の到達目標				
1. 人にとって働くことにはどのような意味があるか、説明できる 2. 就労支援に必要な支援者が持つべき概念、価値観を説明できる 3. 就労支援における作業療法士の役割を説明できる 4. 就労支援で用いる検査法を列挙し、説明できる 5. 就労支援関連法規と制度を説明できる 6. 障害者就労支援における我が国の現状と課題を説明できる 7. 個別の疾患の特徴と就労支援の方法や課題を関連づけて説明できる				
授業計画				
回	内容			
1	職業関連活動とは 働くとは 求人票の見かた【嘉納】			
2	働く意味を考える【嘉納】			
3	「働く」について考える①日本の雇用の現状【嘉納】			
4	「働く」について考える②病気で働けなくなったら【嘉納】			
5	職業リハビリテーションとは 障害者の就労について【嘉納】			
6	障害者の就労制度 就労支援技術【嘉納】			
7	職業評価の方法と実際【嘉納】			
8	障害別就労支援の実際：統合失調症【淡路】			
9	障害別就労支援の実際：うつ病【淡路】			
10	障害別就労支援の実際：高次脳機能障害【中田】			
11	障害別就労支援の実際：知的障害【笹井】			
12	就労支援における作業療法士の役割について【大谷】			
13	知的障害者の就労について（親の立場から）【小川】			
14	重度心身障害者の就労について（支援学校の立場から）【角谷】			
15	まとめ【淡路】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%	到達目標の達成度で評価する。		
レポート・課題	40%	講義後の感想文および講義中に提示する課題レポートで評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準作業療法学 作業療法評価学 第4版	能登真一 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
神経内科学		講義	劉 兆権	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
概論及び各論を通して、神経内科学の基本概念及び基本知識を理解してもらうことを目的としています。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・局在診断を説明できる。</li> <li>・代表的疾患の原因・症状・治療法・予後を説明できる。</li> </ul>				
授業計画				
回	内容			
1	神経系解剖生理学 (1) 神経の分類と機能			
2	(2) 伝導路と反射			
3	神経系病態症候学 (1) 意識障害			
4	(2) 運動麻痺			
5	(3) 運動失調			
6	(4) 高次脳機能障害1 失語症、失認			
7	(5) 高次脳機能障害2 失行、記憶障害、認知症			
8	小テスト			
9	神経疾患各論 (1) 脳血管障害			
10	(2) 脳腫瘍			
11	(3) 錐体外路の変性疾患 パーキンソン病			
12	(4) 末梢神経疾患1 顔面神経麻痺、ギラン・バレー症候群			
13	(5) 末梢神経疾患2 しびれ、周期性四肢麻痺			
14	神経疾患に多い合併症			
15	復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%	局在診断を説明でき、代表的疾患の発症機序、症状を理解できる点を評価基準とする		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	疑問点や不明点について、積極的に質問し、活発に論議することを評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 神経内科学 第6版	川平和美	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学 I		講義・演習	山本 翔太	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
脳血管障害の基礎知識と作業療法の流れ、評価法について学ぶ。知識と技術の獲得と両者の統合を目指す。				
授業の到達目標				
1. 中枢神経系の構造、機能について説明ができる。 2. 脳血管障害の概要(分類、機序、症状、予後)について説明ができる。 3. 脳血管障害に対する評価を列挙できる。 4. 脳血管障害に対する評価の意義、目的、方法について説明ができる。 5. 代表的な脳血管障害の評価を実施できる。 6. 脳血管障害に対する作業療法 (各期の役割、流れ) について説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	中枢神経系の構造と機能			
2	脳血管障害とは (機序、分類、症状、予後) ①			
3	脳血管障害とは (機序、分類、症状、予後) ②			
4	脳血管障害とは (機序、分類、症状、予後) ③			
5	脳血管障害の診断と治療			
6	脳血管障害に対するリハビリテーションの流れ①			
7	脳血管障害に対するリハビリテーションの流れ②			
8	脳血管障害に対する作業療法評価 (情報収集、意識、バイタルサイン)			
9	脳血管障害に対する作業療法評価 (運動麻痺)			
10	脳血管障害に対する作業療法評価 (筋緊張、腱反射、関節可動域)			
11	脳血管障害に対する作業療法評価 (感覚、筋力、脳神経)			
12	脳血管障害に対する作業療法評価 (バランス、上肢機能、高次脳機能)			
13	脳血管障害に対する作業療法評価 (基本動作)			
14	脳血管障害に対する作業療法評価 (ADL、脳画像)			
15	脳血管障害に対する作業療法評価 (まとめ)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	課題の理解度と提出によって評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載		再試験は筆記試験を100%として成績判定する。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版	川平和美 編		医学書院	
脳神経疾患ビジュアルブック	森田明夫 編		Gakken	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
脳卒中最前線 第4版	福井圀彦 他著		医歯薬出版株式会社	
動画で学ぶ脳卒中のリハビリテーション	園田茂 編		医学書院	
自由記載				
備考				
作業療法評価では実技も交えながら講義を行う。				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅱ		講義・演習	山本 翔太	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
身体障害治療学Ⅰで学んだ知識、経験を基にして、脳血管障害の作業療法プログラムと、臨床的思考について学ぶ。ケーススタディを通して知識の総括と臨床的思考の練習を行う。				
授業の到達目標				
1. 脳血管障害の代表的な作業療法プログラムについて説明ができる。 2. ケーススタディを通して脳血管障害の統合と解釈、問題点の列挙、目標の立案、プログラムの立案ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	作業療法プログラム（意識障害へのアプローチ、関節可動域訓練、浮腫へのアプローチ）			
2	作業療法プログラム（ポジショニング、シーティング）			
3	作業療法プログラム（神経筋再教育、上肢機能訓練）			
4	作業療法プログラム（神経筋再教育、上肢機能訓練）			
5	作業療法プログラム（基本動作訓練）			
6	作業療法プログラム（知覚再教育、筋力増強訓練、全身持久力増強訓練）			
7	作業療法プログラム（物理療法、高次脳機能訓練、ADL訓練）			
8	作業療法プログラム（ADL訓練、IADL訓練）			
9	作業療法プログラム（ADL訓練、IADL訓練）			
10	作業療法プログラム（CI療法、ロボリハ、ボトックス療法）			
11	ケーススタディ①			
12	ケーススタディ②			
13	ケーススタディ③			
14	ケーススタディ④			
15	ケーススタディ⑤			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	30%	ケーススタディにてレポートを作成する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版	川平和美 編		医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	能登真一 他著		医学書院	
脳神経疾患ビジュアルブック	森田明夫 編		Gakken	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
脳卒中最前線 第4版	福井国彦		医歯薬出版	
動画で学ぶ脳卒中のリハビリテーション	園田茂		医学書院	
作業療法 臨床実習とケーススタディ 第3版	矢谷令子 監修		医学書院	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅲ		講義・演習	中田 修	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
頭部外傷、筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、関節リウマチの特徴、機序、症状、予後、作業療法評価・プログラムについて学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2. 各疾患で行われる評価を列挙できる。 3. 各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4. 各疾患に対する作業療法について説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	頭部外傷			
2	頭部外傷			
3	筋ジストロフィー			
4	筋ジストロフィー			
5	筋萎縮性側索硬化症			
6	筋萎縮性側索硬化症			
7	多発性硬化症			
8	多発性硬化症			
9	ギランバレー症候群			
10	ギランバレー症候群			
11	関節リウマチ			
12	関節リウマチ			
13	関節リウマチ			
14	関節リウマチ			
15	関節リウマチ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	教科書及び授業で配ったプリントの内容を問うテストを行うことで評価する		
レポート・課題				
小テスト	20%	各疾患の講義終了後に行う小テストの得点で評価する		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅳ		講義	井上 直樹・藤井 一真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
脳腫瘍、重症筋無力症、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎、脊髄小脳変性症、パーキンソン病の特徴、機序、症状、予後、作業療法評価・プログラムについて学ぶ。 ケーススタディを通して知識の総括と臨床的思考の練習を行う。				
授業の到達目標				
1.各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2.各疾患で行われる評価を列挙できる。 3.各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4.各疾患に対する作業療法について説明ができる。 5.ケーススタディを通して、統合と解釈、問題点の列挙、目標の立案、プログラムの立案ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	脳腫瘍【藤井】			
2	脳腫瘍【藤井】			
3	パーキンソン病【藤井】			
4	パーキンソン病【藤井】			
5	パーキンソン病【井上】			
6	重症筋無力症【井上】			
7	重症筋無力症【井上】			
8	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎【井上】			
9	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎【井上】			
10	脊髄小脳変性症【井上】			
11	脊髄小脳変性症【井上】			
12	脊髄小脳変性症【井上】			
13	ケーススタディ【井上】			
14	ケーススタディ【井上】			
15	ケーススタディ【井上】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	30%	ケーススタディでレポートを作成する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験の割合を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
脳神経疾患ビジュアルブック	落合慈之 編		学研メディカル秀潤社	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	能登真一 他編		医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第6版	川平和美 編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				
授業内容や順序は変更することがある。				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅴ		講義・演習	嘉納 綾・久保 周平 藤井 一真・山田 陽子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
整形疾患の中で骨折、上肢の末梢神経障害、腱損傷、加齢性関節疾患の特徴と作業療法について学ぶ。ケーススタディを通して知識の総括と臨床的思考の練習を行う。				
授業の到達目標				
1.各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2.各疾患の評価を列挙できる。 3.各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4.各疾患に対する作業療法について説明ができる。 5.ケーススタディを通して、統合と解釈、問題点の列挙、目標の立案、プログラムの立案ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	大腿骨頸部骨折【藤井】			
2	大腿骨頸部骨折【藤井】			
3	骨折（肩～手）【山田】			
4	骨折（肩～手）【山田】			
5	腱板損傷【山田】			
6	腱板損傷【山田】			
7	上肢末梢神経麻痺について【久保】			
8	上肢の末梢神経麻痺の作業療法【久保】			
9	手指腱損傷の作業療法【久保】			
10	加齢性関節疾患【嘉納】			
11	腰部脊柱管狭窄症【嘉納】			
12	ケーススタディ【嘉納】			
13	ケーススタディ【嘉納】			
14	ケーススタディ【嘉納】			
15	ケーススタディ【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	30%	ケーススタディで作成したレポートで評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載		再試験は筆記試験を100%として成績判定する		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 整形外科学 第5版	立野勝彦		医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	能登真一		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学VI		講義・演習	山本 翔太・井上 直樹 大永 寛・山田 陽子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>整形疾患の中で頸髄症、脊髄損傷の特徴と作業療法について学ぶ。 講義後半には実際に脊髄損傷の方に来校していただき、グループに分かれて評価と統合と解釈を行う。 また個人でレポート作成を行う。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2. 各疾患の評価を列挙できる。 3. 各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4. 各疾患に対する作業療法について説明ができる。 5. 実際の脊髄損傷の方をケースとして、評価、統合と解釈を行うことができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	頸髄症<山田>			
2	頸髄症<山田>			
3	脊髄損傷（講義）			
4	脊髄損傷（講義）			
5	脊髄損傷（評価準備）			
6	脊髄損傷（評価準備）			
7	脊髄損傷（評価準備）			
8	脊髄損傷（評価準備）			
9	脊髄損傷（評価）			
10	脊髄損傷（評価）			
11	脊髄損傷（評価準備）			
12	脊髄損傷（評価準備）			
13	脊髄損傷（評価）			
14	脊髄損傷（評価）			
15	脊髄損傷（まとめ）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	30%	脊髄損傷のケースレポートを各自作成する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	能登真一 他編		医学書院	
新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援の実際	伊藤利之 他編		医歯薬出版	
標準理学療法学・作業療法学 整形外科学 第5版	奈良勲 他監修		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				
講義の順序や内容は変更する場合がある。その場合は書面または口頭にて通知する。				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅶ		講義	嘉納 綾・山本 翔太・林田 健・山本 浩介	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
内部疾患の対象者に作業療法を実施できるようになるために、各疾患の病態および作業療法の評価と治療・指導・援助方法について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2. 各疾患の評価を列挙できる。 3. 各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4. 各疾患に対する作業療法について説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	心電図【林田】			
2	心疾患【山本翔太】			
3	心疾患【山本翔太】			
4	心疾患【山本翔太】			
5	呼吸器疾患【山本翔太】			
6	呼吸器疾患【山本翔太】			
7	呼吸器疾患【山本翔太】			
8	糖尿病【嘉納】			
9	腎疾患【嘉納】			
10	悪性腫瘍【山本浩介】			
11	ターミナルケア【山本浩介】			
12	乳がん【嘉納】			
13	聴覚障害【嘉納】			
14	嚥下障害【嘉納】			
15	嚥下障害【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版	前田眞治・上月正博・飯山準一		医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	能登真一 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学演習 I		演習・講義	井上 直樹	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
身体障害領域で行われる「①作業療法の治療原理」と「②疾患によらず必要とされる基本的治療方法」の2点について学び、知識に基づいた技術の獲得を目指す。				
授業の到達目標				
1. 各作業療法の治療原理について説明ができる。 2. 基本的治療方法について説明できる 3. 起居移乗動作の介助法を実施できる。				
授業計画				
回	内容			
1	関節可動域訓練の原理			
2	関節可動域訓練			
3	関節可動域訓練			
4	関節可動域訓練			
5	筋力増強訓練の原理			
6	筋力増強訓練			
7	筋力増強訓練			
8	介助方法の基本原則・寝返りの原理・介助および治療方法			
9	起き上がりの原理			
10	起き上がり介助および治療方法			
11	起立動作の原理			
12	立ち上がり介助および治療方法			
13	移乗動作の原理			
14	移乗介助および治療方法			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト	30%	前回までの授業の復習として、ペーパーテストを授業内に随時実施する		
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験の割合を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	能登真一 他著		医学書院	
新・徒手筋力検査法 原著第10版	津山直一 他訳		協同医書	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				
実技演習を行うため、動きやすい服装で出席すること。授業内容は前後することがある。				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学演習Ⅱ		演習・講義	岡田 誠暁・中田 修・宮下 悠紀 福林 秀幸・中村 由果理	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
身体障害領域、特に整形外科系で行われる作業療法の治療原理について学ぶ。具体的には、廃用症候群に対するプログラム、感覚・知覚再教育、自助具作成、スプリント、吸引法、物理療法について学ぶ。知識に基づいた技術の獲得を目指す。				
授業の到達目標				
1. 各作業療法プログラムの意義、目的、方法について説明ができる。 2. 自助具作成を行うことができる。 3. スプリント作成を行うことができる。 4. 吸引の仕方を説明できる。 5. 物理療法について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	廃用症候群とその対応			
2	廃用症候群とその対応			
3	感覚・知覚再教育【中田】			
4	感覚・知覚再教育【中田】			
5	自助具作成			
6	自助具作成			
7	スプリント療法の概要【宮下】			
8	スプリントの製作（背側カックアップスプリント①）【宮下】			
9	スプリントの製作（背側カックアップスプリント②）【宮下】			
10	スプリントの製作（短対立スプリント①）【宮下】			
11	スプリントの製作（短対立スプリント②）【宮下】			
12	スプリントの製作（ジョイントジャックスプリント）【宮下】			
13	吸引法【中村】			
14	物理療法【福林】			
15	物理療法【福林】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	授業の理解度で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	50%	自助具、スプリント作成の結果で評価を行う。		
自由記載	再試験は筆記試験100%で成績判定を行う。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害評価学Ⅲ		演習・講義	井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>身体障害領域の作業療法評価の意義、目的、方法について学ぶ。具体的には評価の全体の流れ（検査・測定→統合と解釈→問題点と利点の列挙→目標の立案）、姿勢反射検査、上肢機能検査、協調性検査、摂食・嚥下機能検査、排泄機能検査、画像評価、日常生活活動の評価、QOL・興味・役割の評価、AMPS、COPMについて学ぶ。知識と技術の獲得と両者の統合を目指す。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体障害領域の作業療法評価で用いる検査・測定を列挙、説明、実施できる。</li> <li>2. 評価結果を記録できる。</li> <li>3. 統合と解釈、問題点と利点の抽出、目標の立案の流れについて説明できる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	評価の全体の流れ①			
2	評価の全体の流れ②			
3	日常生活活動の評価①			
4	日常生活活動の評価②			
5	日常生活活動の評価③			
6	姿勢反射検査			
7	上肢機能検査、協調性検査①			
8	上肢機能検査、協調性検査②			
9	上肢機能検査、協調性検査③			
10	摂食・嚥下機能検査・排泄機能検査			
11	画像評価①			
12	画像評価②			
13	QOL・興味・役割の評価、AMPS、COPM①			
14	QOL・興味・役割の評価、AMPS、COPM②			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%			
レポート・課題	30%	レポート課題の内容で評価する		
小テスト	10%	前回までの授業の復習として、ペーパーテストを授業内に随時実施する		
平常点				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験の割合を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業療法評価学 第4版	能登真一 他著	医学書院		
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価	宮越浩一 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
脳画像 標準理学療法学・作業療法学・言語障害学 別巻	前田真治 著	医学書院		
作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド	吉川ひろみ 著	医学書院		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
整形外科科学Ⅱ		講義	嘉納 綾・井上 直樹・中田 修	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義は、整形外科疾病論の各疾患についての理解を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 神経・筋疾患を説明できる。 2. 炎症性疾患を説明できる。 3. 先天性骨・関節疾患を説明できる。 4. 退行性疾患を説明できる。 5. 切断および離断について説明できる。 6. 循環障害と壊死性疾患を説明できる。 7. 骨・軟部腫瘍を説明できる。 8. 脊髄損傷について説明できる。 9. 熱傷について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	神経・筋疾患：脳性まひ、筋ジストロフィー【中田】			
2	炎症性疾患：関節リウマチ、強直性脊椎炎他【中田】			
3	代謝・内分泌性疾患：くる病、骨軟化症他【中田】			
4	先天性骨・関節疾患【中田】			
5	骨・軟部腫瘍【中田】			
6	脊髄損傷①【中田】			
7	脊髄損傷②【中田】			
8	退行性疾患：骨粗鬆症、変形性関節症他【井上】			
9	循環障害と壊死性疾患①：四肢の循環障害、外傷による循環障害【井上】			
10	循環障害と壊死性疾患②：骨壊死【井上】			
11	循環障害と壊死性疾患③：骨端症【井上】			
12	切断および離断【嘉納】			
13	スポーツ障害【嘉納】			
14	熱傷【嘉納】			
15	まとめ【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版	立野勝彦・染矢富士子	医学書院		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	野村巖 編	医学書院		
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価	宮越浩一 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準整形外科学 第14版	井樋栄二 他編	医学書院		
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生活環境学		講義・演習	嘉納 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この講義では、日本の住環境の特性を知り、それがADLに与えている影響について考える。また、住環境整備の必要性や効果を知り、具体的な整備方法およびその際の留意点を学習する。また、介護保険における住宅改修についても学習する。				
授業の到達目標				
1. 日本の住環境の特性を説明できる。 2. 住環境整備の必要性とその効果を説明できる。 3. 住環境整備の方法について説明できる。 4. 事例の住宅改修プランを考えることができる。 5. 介護保険制度について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	住環境整備について			
2	住環境整備（場所別）			
3	住環境整備の実際（事例演習1）			
4	住環境整備の実際（事例演習2）			
5	住環境整備の実際（事例演習3 グループワーク）			
6	”			
7	発表			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%			
レポート・課題	20%			
小テスト				
平常点				
その他	20%	発表で評価する		
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
生活環境学テキスト 改訂第2版	細田多穂 監修		南江堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
OT・PTのための住環境整備論 第2版	野村歡・橋本美芽		三輪書店	
作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備	木之瀬隆 編		協同医書	
自由記載				
備考				
グループワーク、発表には積極的に参加すること				

科目名		授業形態	担当教員名	
精神医学Ⅱ		講義	淡路 大致	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
統合失調症や気分障害など将来専門職として治療や支援させていただく機会が多い疾患についての理解を第一目標とする。また現代のストレス社会において、精神疾患はより身近なものとなってきている。その他人が生きていくうえで陥る可能性のある様々な疾患についても、単に症状や障害を理解するだけでなく、そういった方々の生活の生きづらさなどについても理解できることを目指す。				
授業の到達目標				
1. 精神医学の基本を理解し、個々の精神疾患について概要を理解できるようになる。 2. 代表的な疾患に関して治療法・本人や家族への支援について理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	統合失調症（成因・症状）			
2	統合失調症（症状・経過）			
3	統合失調症（経過・治療法）			
4	気分障害（うつ病）			
5	気分障害（躁うつ病）			
6	神経症性障害（不安・恐怖症及び強迫神経症）			
7	神経症性障害（ストレス関連障害及び身体表現性障害）			
8	てんかん			
9	パーソナリティ障害(B群のパーソナリティ障害)			
10	パーソナリティ障害(その他) / 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（睡眠-覚醒障害群）			
11	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（食行動障害および摂食障害群）			
12	精神作用物質による精神及び行動障害(依存症とは・薬物依存症)			
13	精神作用物質による精神及び行動障害（アルコール依存症）			
14	心理的発達障害及び精神遅滞			
15	小児期の情動・行動障害			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト	30%	授業開始時に行う。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準精神医学 第8版	尾崎紀夫 編集 他	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害治療学 I		講義	淡路 大致	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
精神障害分野での代表的な疾患に対する回復段階に応じた作業療法を実施するための知識や理論・実践を学ぶ。精神医学 I・II で得た知識を踏まえたうえで、各精神疾患の患者さんたちがどのような特性があり、どのようなことで悩んでおられ、そのため作業療法ではどのような支援が必要なのかと論理的に考えられることを目指す。				
授業の到達目標				
1. 精神障害領域の作業療法の治療構造を説明できる。 2. 代表的な疾患における各回復段階の作業療法について説明できる。 3. 代表的な疾患に応じた適切な作業療法実施について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	精神障害分野の作業療法構造①			
2	精神障害分野の作業療法構造②			
3	統合失調症の急性期作業療法①			
4	気分障害の急性期作業療法			
5	急性期治療実施計画			
6	急性期治療実施計画			
7	統合失調症・気分障害の急性期作業療法演習と振り返り			
8	急性期作業療法実施に対する振り返り			
9	統合失調症の回復期前期作業療法			
10	気分障害の回復期前期作業療法			
11	回復期前期実施計画			
12	回復期前期実施計画			
13	統合失調症・気分障害の回復期前期作業療法演習			
14	回復期前期作業療法実施に対する振り返り			
15	回復期後期作業療法・維持期作業療法			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%	到達目標の達成度で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	40%	実施計画書・演習内容で評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	朝田隆	中央法規		
精神障害と作業療法 新版	山根寛	三輪書店		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業療法全書改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害	富岡詔子・小林正義	協同医書		
自由記載				
備考				
精神医学 I・II の知識が不可欠なので予習・復習をしておくこと				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害治療学Ⅱ		講義・演習	淡路 大致	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
精神障害治療学Ⅰや精神障害評価学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・経験をもとに、統合失調症や気分障害といった精神障害に対して、適切な作業療法が選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 精神障害領域で行われている治療について列挙できる。 2. それぞれの治療内容・留意点を説明できる。 3. 精神障害作業療法プログラムを立案し、作業療法士としての対応方法や実施上の留意点を説明できる。 4. 活動を分析し、患者の特性に合わせた使い分けについて説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	作業の治療的応用			
2	作業の治療的応用			
3	認知行動療法			
4	認知行動療法			
5	認知行動療法			
6	曝露療法			
7	疾病・心理教育			
8	SST			
9	認知機能リハビリテーション（MCT・NEAR・SCIT）			
10	認知機能リハビリテーション（MCT・NEAR・SCIT）			
11	認知機能リハビリテーション（MCT・NEAR・SCIT）			
12	認知機能リハビリテーション（運動系）			
13	認知機能リハビリテーション（運動系）			
14	感覚統合療法			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	授業の到達目標で評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	朝田隆		中央法規	
精神障害と作業療法 新版	山根寛		三輪書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
生活を支援する 精神障害作業療法 急性期から地域実践まで 第2版	香山明美・小林正義 他		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害治療学Ⅲ		演習・講義	淡路 大致・濱崎 光弘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
精神障害治療学Ⅰ・Ⅱ、精神障害評価学Ⅰ・Ⅱで得た知識をふまえ、精神障害領域の評価や治療技法について演習を通じて学び、実際に当事者との関わりのなかから作業療法の一連の流れを経験する。				
授業の到達目標				
1. 当事者の生活上の困りごとを聴取し寄り添うことができる。 2. 当事者の全体像をまとめ、統合と解釈ができる。 3. 当事者の望む生活に合わせた作業療法を立案できる。 4. 精神障害作業療法の一連の流れを説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	当事者評価計画			
2	当事者評価計画			
3	当事者評価			
4	当事者評価			
5	当事者評価振り返り			
6	当事者評価			
7	当事者評価			
8	当事者評価振り返り			
9	当事者評価			
10	当事者評価			
11	当事者評価振り返り			
12	当事者情報の列挙・整理・解釈			
13	当事者情報の列挙・整理・解釈			
14	当事者情報の統合と解釈・目標設定・作業療法立案			
15	発表・質疑応答			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	70%	当事者に関するレポートで評価する		
小テスト				
平常点				
その他	30%	グループワークの参加への主体性や貢献度で評価する		
自由記載	再試験は実施しない			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
精神障害と作業療法 新版	山根寛		三輪書店	
精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版	朝田隆		中央法規	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害評価学 I		演習・講義	淡路 大致	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
精神障害領域の作業療法で用いられる各種評価について学び、目的に合わせた評価を選択できることを目指す。				
授業の到達目標				
1. 精神科作業療法に必要な評価項目について、各項目の理解および説明することができる。 2. 精神科作業療法で用いられる評価について、目的別に列挙することができる。 3. 精神科作業療法で用いられる評価の構造・使用時の留意点などが説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	精神科作業療法評価の基礎			
2	面接			
3	面接			
4	観察			
5	症状評価尺度			
6	日常生活・社会生活評価			
7	クライアントとの協業的評価			
8	集団における評価			
9	認知機能評価			
10	作業遂行機能評価			
11	精神科作業評価における臨床思考			
12	精神科作業評価における臨床思考			
13	評価内容の記録と整理			
14	評価内容の記録と整理			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	到達目標の達成度で評価する		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版	山口芳文 編集	メジカルビュー		
精神障害と作業療法 新版	山根寛	三輪書店		
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	朝田隆	中央法規		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準作業療法学 精神機能作業療法学 第2版	小林夏子	医学書院		
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害評価学Ⅱ		演習・講義	淡路 大致・濱崎 光弘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
対象者の作業場面の動画や対象者と関わる機会を通じ、評価の視点や精神疾患を抱える方との関わり方や評価方法を学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 対象者の状態に合わせた面接が実施できる。 2. 作業特性と作業遂行能力を関連付けて評価できる。 3. 対象者を理解するために必要な評価を選択できる。 4. 観察・経験した事柄を客観的に記録・報告できる。 5. 対象者の生活や思いに関心を向け関われる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション・目的に応じた関わり方を考える			
2	動画を通じ精神科臨床における評価・介入技術			
3	評価・介入計画・記録の書き方			
4	対象者に関する情報収集			
5	対象者に関する情報収集			
6	対象者への介入計画			
7	対象者への面接			
8	対象者への面接			
9	対象者への面接振り返り			
10	対象者への検査測定			
11	対象者への検査測定			
12	対象者への検査測定振り返り			
13	対象者との作業活動			
14	対象者との作業活動			
15	対象者との関わり方の振り返りとまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	70%	個人・グループでの提出物にて評価する。		
小テスト				
平常点				
その他	30%	グループワークでの参加態度で評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版	山口芳文 編集	メジカルビュー		
精神障害と作業療法 新版	山根寛	三輪書店		
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	朝田隆	中央法規		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準作業療法学 精神機能作業療法学 第2版	小林夏子	医学書院		
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
地域ケア論		講義	吉田 史朗	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように、地域の包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」が構築されています。この講義では、地域包括ケアシステムについて学習し、地域における作業療法士の役割を考えます。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 地域包括ケアシステムについて説明できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	地域包括ケアシステムについて			
2	医療と介護連携について			
3	在宅福祉サービスの実際			
4	地域を支える多職種とチームビルディング			
5	地域で活躍する多職種が作業療法士に期待すること			
6	地域ケア会議の実際			
7	グループワーク「地域包括ケアシステムの中で作業療法士ができること」			
8	発表とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	80%			
小テスト				
平常点	20%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
地域作業療法学 I		講義	岡田 誠暁・大浦 由紀・上原 央 他	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
障がいがあっても、地域で共に生活をしてゆくことは、リハビリテーションの目指すところである。その中で作業療法士へのニーズは高まってきている。この授業では、地域作業療法の知識や各種制度について理解する。また医療から福祉への支援の流れや作業療法士の役割について学び、地域で生活する障がい者の在宅生活を支える上で作業療法士の持つべき視点を理解する。				
授業の到達目標				
1. 地域リハビリテーションについての基盤、背景について説明することができる。 2. 地域で生活する障がい者を支援するための制度について説明ができる。 3. 地域の人々の生活・文化・環境等、地域の特性や課題について説明できる。 4. 実践の場に応じた作業療法について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	地域リハビリテーションの定義と歴史			
2	地域作業療法の役割 概要			
3	作業療法士が関わる社会保障制度			
4	地域課題とリハビリテーション①			
5	"			
6	地域課題とリハビリテーション②			
7	"			
8	通所系作業療法			
9	"			
10	訪問系作業療法			
11	"			
12	司法・行政領域における作業療法			
13	"			
14	海外における作業療法			
15	"			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	80%	課題レポートの内容で評価をする。提出期限は厳守する。		
小テスト				
平常点				
その他	20%	グループワーク時の課題内容・参加態度にて評価する。		
自由記載		再試験は実施しない。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
老年期の作業療法	浅海奈津美		三輪書店	
よくわかる社会福祉	山縣文治		ミネルヴァ書房	
自由記載				
備考				
在宅生活を支えるサービスに興味を抱いて欲しい。				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
地域作業療法学Ⅱ		演習・講義	嘉納 綾・岡田 誠暁・猪川 俊博	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
地域で生活する障がい者を支えるために必要な地域作業療法の知識や各種制度、医療から福祉への支援の流れや作業療法士の役割について理解を深める。地域リハビリテーションにおける社会資源の活用方法を学び、作業療法プログラムの作成方法、実際の支援のあり方について具体的な事例を通して学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 地域で暮らす障害者の心身機能だけでなく個人・環境因子など広い視野で評価し、その人が望む生活を送ることができるようにするためのアプローチ方法を具体的に述べるができる。 2. 地域で生活する障害者を支援するための制度について具体的に説明し活用ができる。 3. 生活行為向上マネジメントシートを使用し、模擬事例の評価とプランニングが行える。 4. 集団を利用することの目的と効果を説明できる。 5. 集団訓練のプランニングと運営ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	生活行為向上マネジメント概論【嘉納】			
2	生活行為向上マネジメント演習①【嘉納】			
3	生活行為向上マネジメント演習②【嘉納】			
4	生活行為向上マネジメント演習③【嘉納】			
5	生活行為向上マネジメント演習④【嘉納】			
6	生活行為向上マネジメント発表【嘉納】			
7	生活行為向上マネジメントまとめ【嘉納】			
8	精神障害領域の就労支援【猪川】			
9	精神障害領域の就労支援【猪川】			
10	精神障害領域の就労支援【猪川】			
11	精神障害領域の就労支援【猪川】			
12	事例検討（高齢者）【岡田】			
13	事例検討（高齢者）【岡田】			
14	集団訓練【岡田】			
15	集団訓練【岡田】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%	課題レポートの内容で評価をする		
小テスト				
平常点				
その他	50%	MTDLP演習シートの内容および発表で評価する		
自由記載	再試験は実施しない			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント改訂第4版	日本作業療法士協会		日本作業療法士協会	
よくわかる社会福祉	山縣文治		ミネルヴァ書房	
自由記載				
備考				
地域における精神障害の就労支援や、高齢者の在宅生活を支えるサービスに興味を抱いて欲しい。				

科目名		授業形態	担当教員名	
内科学Ⅱ		講義	山本 翔太・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
高齢社会を迎えた現在、作業療法が対象とする高齢者も多く、内科的疾患を有することも必然的に高くなる。内科的疾患の中でも作業療法場面でよくみられる循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病を始めとする内分泌代謝性疾患等について理解する。また、老化に伴う身体機能、運動機能、心理の変化とそれらが疾病の成立にどのように関与しているかを学習し、高齢者の特性を理解する。				
授業の到達目標				
1. 主な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について説明できる。 2. 主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について説明できる。 3. 代謝性疾患の病態と臨床的特徴を説明できる。 4. 免疫疾患の病態と臨床的特徴を説明できる。 5. 代表的な内分泌疾患の病態と臨床的特徴を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	呼吸器の構造と生理機能、病因病態、主な症候【山本】			
2	肺感染症【山本】			
3	慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎【山本】			
4	肺腫瘍、呼吸不全、肺性心【山本】			
5	血液の成分と生理、血液疾患の主な症候、検査法【山本】			
6	貧血、出血、血栓性疾患、白血病、DICなど【山本】			
7	代謝性疾患①：代謝に関する基本事項（ビタミン、酵素を含む）【大永】			
8	代謝性疾患②：代謝に関する疾患【大永】			
9	免疫疾患①：免疫に関する基本事項【大永】			
10	免疫疾患②：免疫反応による疾患について【大永】			
11	内分泌腺の解剖、生理と病態【大永】			
12	視床下部、下垂体の疾患について【大永】			
13	甲状腺、副腎機能異常による疾患について【大永】			
14	感染症の概念、各病原体の感染特徴、臨床症状、検査方法と診断方法【大永】			
15	細菌感染、ウイルス感染、真菌感染による疾患など【大永】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版	前田眞治 編		医学書院	
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語障害学 別巻 画像評価	宮越浩一 編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版	岡田隆夫 他		医学書院	
からだが見える 人体の構造と機能	医療情報科学研究所		メディックメディア	
自由記載				
備考				
講義の順番は前後することがある				

## 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
日常生活活動		講義・演習	岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
患者の日常生活活動（Activities of daily living ; ADL）の維持改善は、作業療法士が取り組むべき重要な課題である。この授業ではADLの基礎的知識、評価、動作別の特徴を学び、さらに疾患別のADLの特徴やその治療的介入方法について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 日常生活活動について説明ができる。 2. 日常生活活動障害の評価ができる。 3. 疾患別の日常生活活動とその援助法について説明ができる。 4. 日常生活活動障害の原因を分析し解決策を導き出すことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	日常生活活動の評価			
3	コミュニケーション			
4	自助具・福祉用具について			
5	疾患別ADLについて 中枢性疾患 片麻痺①			
6	疾患別ADLについて 中枢性疾患 片麻痺②			
7	疾患別ADLについて 脊髄小脳変性症 パーキンソン病			
8	疾患別ADLについて 筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症			
9	疾患別ADLについて 関節リウマチ 脊髄損傷			
10	疾患別ADLについて 呼吸器疾患 切断			
11	日常生活活動訓練の実際 発表①			
12	日常生活活動訓練の実際 発表②			
13	日常生活活動訓練の実際 発表③			
14	IADL 社会生活行為			
15	授業のまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	上記の授業の到達程度で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	準備物・課題提出・グループ発表などの授業参加態度で評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
新版 日常生活活動（ADL）第2版	伊藤利之・江藤文夫 編		医歯薬出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 身体機能作業療法 第3版	山口昇 編集		医学書院	
自由記載				
備考				
予定は、前後変更する可能性がある。その場合は通知する。 実技・実習の場合は、実習室で行います。各種道具を使用するため協力して準備をしてください。				

科目名		授業形態	担当教員名	
発達障害治療学 I		講義・演習	笹井 久嗣	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
発達障がいを持つ子どもへの作業療法を学ぶ。正常発達の知識を深め、臨床で使われる一般的な評価 (ADL・姿勢運動・上肢機能・感覚・視知覚など) を学ぶ。発達障がいの中でもASD, ダウン症, CP (PVL), MDなどの疾患についても講義を行う。発達障害領域の評価の基本的な考え方を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 発達障害領域における作業療法評価で用いる各種検査を挙げ、説明できる。 2. 発達障害領域の疾患について説明できる。 3. 障がいを持った子どもの姿勢分析ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	発達概念について (1)			
2	発達概念について (2)			
3	発達理論について (1)			
4	発達理論について (2)			
5	発達検査について			
6	姿勢反射/反応について			
7	正常運動発達について (1)			
8	正常運動発達について (2)			
9	正常運動発達について (3)			
10	正常運動発達について (4)			
11	脳性マヒ、ダウン症、筋ジストロフィー、二分脊椎、ASD、LDなどについて			
12	脳性マヒ、ダウン症、筋ジストロフィー、二分脊椎、ASD、LDなどについて			
13	神経学的評価について (1)			
14	神経学的評価について (2)			
15	まとめと解説			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
発達障害の作業療法	上杉雅之 監修		医歯薬出版株式会社	
イラストで分かる人間発達学	上杉雅之 監修		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				
プリントを配布し、授業を行う。授業毎にリアクションシートの記入を行い、質問などに対して返答していく。授業の理解度を確認する確認問題なども行っていく。				

科目名		授業形態	担当教員名	
発達障害治療学Ⅱ		講義・演習	笹井 久嗣	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>発達障害領域の各種疾患、障害に対する作業療法について理解することを目的とする。            具体的には障害を持った子どもさんのビデオ分析をしたり、実際に来て頂き、評価・治療の経験をする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 発達障害領域の各疾患・障害に対する作業療法評価と治療について説明できる。            2. ビデオや検査結果から対象児の全体像を考えることができる。            3. 全体像から導き出される具体的な作業療法介入を考えることができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	発達障害治療学Ⅱの進め方・評価計画立案			
2	評価計画立案(Aくん)			
3	評価演習(Aくん)			
4	評価演習(Aくん)			
5	評価の振り返り及び治療計画立案(Aくん)			
6	治療計画(Aくん)			
7	治療演習(Aくん)			
8	治療演習(Aくん)			
9	治療の振り返り治療演習(Aくん)			
10	評価計画(Bくん)			
11	評価演習(Bくん)			
12	評価演習(Bくん)			
13	当事者からのお話			
14	当事者からのお話			
15	発達障害治療学Ⅱまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	評価計画・実施、治療プログラム立案・実施にかけてのレポートの完成度により評価		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	再試験は実施しない			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床栄養学		講義	三好 真琴・前重 伯壮	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>リハビリテーションを受けている患者さんには低栄養の人が多という報告がある。栄養管理をしながら作業療法を実施しなければその効果はなく、ずさんな栄養管理で行えば逆に悪化してしまう可能性もある。本講義では栄養学に関する基礎的な知識を習得し、栄養と健康維持・増進、介護予防及びリハビリテーションとの関連を理解することを目指す。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 栄養を食品面と生体面の双方から説明することができる。 2. 栄養がリハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	生化学・栄養学に必要な基礎化学、栄養評価			
2	蛋白質とアミノ酸、酵素・ホルモン			
3	糖質、脂質			
4	ビタミン・ミネラル、消化と吸収			
5	主な病態の栄養管理、静脈・経腸栄養法、栄養と摂食嚥下			
6	褥瘡と栄養			
7	エネルギー代謝、運動と栄養			
8	リハビリテーションと栄養			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	身体内の物質の反応や栄養状態の知識について理解できているかを評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベーシック生化学・栄養学 第2版	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床評価実習		実習	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
135 時間 （ 3 単位）		回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
臨床評価実習では、臨床教育指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、作業療法士としての①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践できる、③臨床教育指導者が情報をどのように捉え、作業療法目標を設定し、作業療法プログラムを実施しているかを理解する。そして何より対象者に寄り添い、対象者の思いを理解できることを目指す。				
授業の到達目標				
1. 職業人としての常識的態度を身につける。 2. 責任ある行動を身につける。 3. 自己管理ができる。 4. 意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 5. 臨床教育指導者の指導・監督のもとで、情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 6. 臨床教育指導者の作業療法の臨床思考過程を説明できる。 7. 管理および運営の補助ができる。				
授業計画				
回	内容			
	オリエンテーション			
	評価実習			
	実習期間：令和8年1月19日～2月7日（1日8時間×15日間）			
	実習施設：病院、老人保健施設など学校が依頼し決定した施設			
	実習形態：同一施設で臨床教育指導者の指導・監督のもと作業療法評価過程を経験する			
	詳細については、オリエンテーション時に伝える			
	実習セミナーⅠ			
	1人の対象者に関して実習で得られた情報を、担当教員の指導のもとまとめる			
	実習セミナーⅡ			
	実習セミナーⅠでまとめた対象者について発表する			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習内容、実習セミナーで総合的に評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
令和7年度臨床評価実習の手引き（神戸総合医療専門学校 作業療法士科）				
自由記載				
備考				
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため、感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理につとめ、特に実習期間は健康に留意すること。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の抗体値が基準を満たしていることと、インフルエンザワクチンを接種していることが、実習に参加する条件である。				

# 令和7年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床薬学		講義	大石 美恵	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>作業療法の対象となる人は、薬物治療を受けていることが多い。この講義では、薬についての基礎的な知識を学ぶとともに、主な疾患に対する薬物治療について理解を深める。薬物の作用や副作用、注意点を理解し、作業療法に活かせる能力を身につけることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 薬の作用機序について説明できる。 2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	臨床薬理学総論1			
2	臨床薬理学総論2			
3	感染・炎症の制御と薬物療法			
4	神経疾患の薬物療法			
5	精神疾患の薬物療法			
6	循環器疾患の薬物療法			
7	疼痛の制御と薬物療法			
8	注意すべき頻用される薬物/まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	薬の基礎的な知識、主な疾患に対する薬物療法についての理解を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	予習・復習することを望みます。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベリック 薬理学・臨床薬理学 第2版	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 第7版	赤瀬智子 柳田俊彦		メディカ出版	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
老年期障害治療学 I		講義	岡田 誠暁	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
高齢化に伴い、疾患や障害像が多様化しており、作業療法のニーズが高まっている。ここでは、一般的高齢者の特徴を学んだ後、近年急激に増加している認知症について医学的知識を深め、作業療法士の役割を学ぶ。また、特に実践現場で多い疾患や排泄障害についての医学的知識を学んだ上で作業療法士の役割を学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 老年期の一般的特徴を説明できる。		5. 認知症の方への対応について説明ができる		
2. 高齢者との接し方について説明できる。		6. 排泄障害について説明できる。		
3. 老年期に多い疾患について説明できる。		7. 排泄障害への対応について説明ができる。		
4. 認知症の症状や特徴について説明ができる。		8. 高齢者体験を通して高齢者の気持ちが想像できる。		
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 高齢者医療とリハビリテーション			
2	高齢化について 老年期作業療法の役割			
3	老年期作業療法の制度的位置づけ (介護サービス・住宅改修)			
4	老年期の特徴 加齢に伴う変化①			
5	老年期の特徴 加齢に伴う変化②			
6	老年期の特徴 加齢に伴う変化③			
7	老年期の特徴 高齢者体験			
8	フレイル・サルコペニア 高齢者と薬物療法			
9	高齢者へのアプローチ・接し方			
10	認知症の定義 MCI アルツハイマー型・レビー小体型認知症			
11	前頭側頭型・脳血管性認知症 その他認知症			
12	認知症の症状と理解 中核症状と周辺症状 概論			
13	認知症の症状と理解 中核症状と周辺症状 事例			
14	排泄障害と作業療法 排泄の仕組みとその対応			
15	排泄障害と作業療法 (オムツ体験)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	上記授業内容に応じた試験により評価を行う		
レポート・課題	20%	認知症・排泄障害のレポートで評価する		
小テスト				
平常点				
その他	10%	準備物や高齢者体験等への参加態度で評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
最新リハビリテーション基礎講座 老年学	荒井秀典・山田実	医歯薬出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 老年学 第5版	大内尉義	医学書院		
老年期の作業療法 改訂第3版	浅海奈津美・守口恭子	三輪書店		
自由記載				
備考				
授業の予定は、前後変更する可能性があります。変更の場合は随時通知する。				

科目名		授業形態	担当教員名	
老年期障害治療学Ⅱ		演習・講義	岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
老年期障害治療学Ⅰの授業で基礎的な知識を学んだうえで、実際の関わり方、作業療法の評価、援助方法についてグループ演習を通して学ぶ。実技を通して障害を有する高齢者への援助技術を習得する。				
授業の到達目標				
1. 高齢者への基本的なかかわり方を実践できる。 2. 老年期作業療法における評価項目をあげ、実践できる。 3. 上記の評価から問題点の焦点化ができる。 4. 老年期作業療法を企画・立案できる。 5. 対象者への介入方法を実践、説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	高齢者の評価 計画と内容			
2	高齢者の評価 実際			
3	高齢者の起居・移乗動作の介助方法			
4	高齢者の姿勢の特徴と対応 良肢位保持			
5	高齢者の姿勢の特徴と対応 車いす調整 シーティング ①			
6	高齢者の姿勢の特徴と対応 車いす調整 シーティング ②			
7	介入事例 ADL・IADL 役割			
8	介入事例 近接援助技術			
9	リスク管理 ①			
10	リスク管理 ②			
11	家族と高齢者介護			
12	高齢者の在宅医療 ターミナルケア			
13	介護保険制度 地域連携			
14	権利擁護 成年後見制度 その他			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	85%	上記の授業内容に準じて試験で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	15%	グループワークでの課題や実技演習時の取り組みによって評価する。		
自由記載	再試験は筆記試験100%で成績判定を行う。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
最新リハビリテーション基礎講座 老年学	荒井秀典・山田実	医歯薬出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 老年学 第5版	大内尉義	医学書院		
老年期の作業療法 改訂第3版	浅海奈津美・守口恭子	三輪書店		
自由記載				
備考				
授業の予定は前後変更する可能性がある。変更の場合は随時通知をする。 実技を行うため、動きやすい服装で参加すること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育Ⅱ		講義・演習	淡路 大致	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	3 年次	前期
授業の目的と概要				
<p>本学での学びを自己の強みとして活かし、就職活動を計画的に行えるようになることを目指す。就職活動に必要な基礎知識を身に付けるだけでなく、自身に合った就職活動を行うために、自己の価値観や強みを明確にした上で、自己PR文の作成やインターネットを介した面接など、実践的な課題に取り組む。本科目での受講を通して、明確な意思と希望をもって、キャリアを描いていく一助としたい。</p>				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実際に就職活動や仕事を行っていく上で、知っておくべきルールやマナーを理解し、習得する。</li> <li>2. 就職試験に向けて、自己発信力を鍛える。</li> <li>3. 自分の特性を踏まえ、今後3年程度のキャリアプランを立てることが出来る。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	就職活動			
2	就職活動			
3	履歴書の書き方			
4	履歴書の書き方			
5	就職面接			
6	就職面接			
7	卒後のキャリア形成			
8	卒後のキャリア形成			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	授業中に行う課題で評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法概論Ⅱ		講義・演習	嘉納 綾・山本 翔太・井上 直樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
この授業では作業療法士として必要な調査・研究の意義と必要性を学ぶ。また、臨床実習での経験を発表することを通し、他者に分かりやすい資料作りやプレゼンテーションの仕方を学ぶ。さらに臨床実習での経験を踏まえた演習を通して臨床場面でMTDLPを実践的に使えることをめざす。				
授業の到達目標				
1. 作業療法における研究の意義を説明できる。 2. 他者に解りやすいプレゼンテーションを行う事ができる。 3. 実習で経験した対象者について生活行為アセスメント演習シートを作成できる。				
授業計画				
回	内容			
1	作業療法研究法：研究の基礎【井上】			
2	臨床実習での経験についての発表資料作り①【山本】			
3	臨床実習での経験についての発表資料作り②【山本】			
4	発表会①			
5	発表会②			
6	MTDLP演習①【嘉納】			
7	MTDLP演習②【嘉納】			
8	MTDLP演習③【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点	20%	授業への参加態度で評価する		
その他	80%	経験発表会のワークシート、MTDLPの演習結果プリントの内容で評価する		
自由記載	再試験は実施しない			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版	日本作業療法士協会		医歯薬出版	
作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント改訂第4版	日本作業療法士協会		日本作業療法士協会	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
障害者スポーツ特論（選択科目）		講義・演習	嘉納 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>パラスポーツに関する基礎的な知識や技術を身につけ、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導くことができるようになることを目指す。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. パラスポーツの意義を説明できる。  2. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫を説明できる。  3. 地域におけるパラスポーツの現状を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質			
2	パラスポーツの意義と理念			
3	パラスポーツに関する諸施策			
4	パラスポーツ推進の取り組み			
5	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫①			
6	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫②			
7	全国障害者スポーツ大会の概要			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
改正版 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)	日本パラスポーツ協会 編		株式会社ぎょうせい	
自由記載				
備考				
初級パラスポーツ指導員の資格を取得できます。				

科目名		授業形態	担当教員名	
総合作業療法学演習 I		講義	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
90 時間 ( 3 単位)		45 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
臨床実習において作業療法の実践を行うためには、これまで学んできた基礎科目や専門科目の知識、技法を再度学び直し、整理・統合する必要がある。 本科目の目的は、対象者理解のための基本となる知識と、作業療法実践のための基本的な技能を習得することである。				
授業の到達目標				
1. 身障分野、精神分野における一般的な症例の病態を基礎科目や専門科目の知識を用いて説明できる。 2. 身障分野、精神分野における一般的な症例に対して、評価の進め方、目標設定、治療プログラムの立案に至るまでの過程を説明できる。 3. 身障分野、精神分野における一般的な症例 (模擬患者) に対して、基本的な評価法、介入方法を実践できる。				
授業計画				
回	内容			
1	臨床実習対策①	31	生理学の知識と作業療法実践⑧	
2	臨床実習対策②	32	運動学の知識と作業療法実践①	
3	臨床実習対策③	33	運動学の知識と作業療法実践②	
4	臨床実習対策④	34	運動学の知識と作業療法実践③	
5	臨床実習対策⑤	35	運動学の知識と作業療法実践④	
6	臨床実習対策⑥	36	運動学の知識と作業療法実践⑤	
7	臨床実習対策⑦	37	運動学の知識と作業療法実践⑥	
8	臨床実習対策⑧	38	運動学の知識と作業療法実践⑦	
9	臨床実習対策⑨	39	運動学の知識と作業療法実践⑧	
10	臨床実習対策⑩	40	身体障害分野の知識と作業療法実践①	
11	臨床実習対策⑪	41	身体障害分野の知識と作業療法実践②	
12	臨床実習対策⑫	42	身体障害分野の知識と作業療法実践③	
13	臨床実習対策⑬	43	精神障害分野の知識と作業療法実践①	
14	臨床実習対策⑭	44	精神障害分野の知識と作業療法実践②	
15	臨床実習対策⑮	45	まとめ	
16	解剖学の知識と作業療法実践①			
17	解剖学の知識と作業療法実践②			
18	解剖学の知識と作業療法実践③			
19	解剖学の知識と作業療法実践④			
20	解剖学の知識と作業療法実践⑤			
21	解剖学の知識と作業療法実践⑥			
22	解剖学の知識と作業療法実践⑦			
23	解剖学の知識と作業療法実践⑧			
24	生理学の知識と作業療法実践①			
25	生理学の知識と作業療法実践②			
26	生理学の知識と作業療法実践③			
27	生理学の知識と作業療法実践④			
28	生理学の知識と作業療法実践⑤			
29	生理学の知識と作業療法実践⑥			
30	生理学の知識と作業療法実践⑦			

<b>科目名</b>
総合作業療法学演習 I

成績の評価方法と基準		
種別	割合	評価基準・その他備考
筆記試験		
レポート・課題	50%	ポスター発表の内容と課題で評価する
小テスト	50%	解剖学・生理学・運動学の小テストの結果で評価する
平常点		
その他		
自由記載	再試験は解剖学・生理学・運動学の筆記試験を100%として成績判定する	
教科書		
書名	著者・編集者名	出版社名
なし		
自由記載		
参考文献		
書名	著者・編集者名	出版社名
自由記載		
備考		
授業計画は臨床実習の状況に影響される。変更があった場合にはその都度変更点を配布する。		

科目名		授業形態	担当教員名	
総合作業療法学演習Ⅱ		演習・講義	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
90 時間 （ 3 単位）		45 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>国家試験対策として、基礎医学・臨床医学・作業療法専門問題について、段階的に学習し、国家試験問題の解き方や自己学習の進め方を身に付けることを目指す。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 過去の国家試験問題の解剖・運動・生理学の範囲に関して、12月末までに概ね8割以上を正答することができる。                  2. 過去の国家試験問題の専門基礎分野の範囲に関して、12月末までに概ね7割以上を正答することができる。                  3. 過去の国家試験問題の全範囲で1月末までに概ね8割以上を正答することができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	国家試験対策：解剖学①	31	国家試験対策：専門分野①	
2	国家試験対策：解剖学②	32	国家試験対策：専門分野②	
3	国家試験対策：解剖学③	33	国家試験対策：専門分野③	
4	国家試験対策：解剖学④	34	国家試験対策：専門分野④	
5	国家試験対策：解剖学⑤	35	国家試験対策：専門分野⑤	
6	国家試験対策：生理学①	36	国家試験対策：専門分野⑥	
7	国家試験対策：生理学②	37	国家試験対策：専門分野⑦	
8	国家試験対策：生理学③	38	国家試験対策：専門分野⑧	
9	国家試験対策：生理学④	39	国家試験対策：専門分野⑨	
10	国家試験対策：生理学⑤	40	国家試験対策：専門分野⑩	
11	国家試験対策：運動学①	41	国家試験対策：専門分野⑪	
12	国家試験対策：運動学②	42	国家試験対策：専門分野⑫	
13	国家試験対策：運動学③	43	国家試験対策：専門分野⑬	
14	国家試験対策：運動学④	44	国家試験対策：専門分野⑭	
15	国家試験対策：運動学⑤	45	国家試験対策：専門分野⑮	
16	国家試験対策：専門基礎分野①			
17	国家試験対策：専門基礎分野②			
18	国家試験対策：専門基礎分野③			
19	国家試験対策：専門基礎分野④			
20	国家試験対策：専門基礎分野⑤			
21	国家試験対策：専門基礎分野⑥			
22	国家試験対策：専門基礎分野⑦			
23	国家試験対策：専門基礎分野⑧			
24	国家試験対策：専門基礎分野⑨			
25	国家試験対策：専門基礎分野⑩			
26	国家試験対策：専門基礎分野⑪			
27	国家試験対策：専門基礎分野⑫			
28	国家試験対策：専門基礎分野⑬			
29	国家試験対策：専門基礎分野⑭			
30	国家試験対策：専門基礎分野⑮			

<b>科目名</b>
総合作業療法学演習Ⅱ

成績の評価方法と基準		
種別	割合	評価基準・その他備考
筆記試験	100%	中間試験3回（全国統一模擬試験を含む）、期末試験で総合評価する
レポート・課題		
小テスト		
平常点		
その他		
自由記載	再試験については開講学期のみとする	
教科書		
書名	著者・編集者名	出版社名
なし		
自由記載		
参考文献		
書名	著者・編集者名	出版社名
自由記載		
備考		

# 令和7年度シラバス

## 作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
地域実習		実習	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
45 時間 ( 1 単位)		回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
1・2年生で学んだ知識、技術、技能、態度の統合を図り、作業療法実践能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、臨床教育指導者の指導・監督のもとでデイケア施設に来られる対象者に関わり、その方の暮らしを知り、地域における施設と作業療法士の役割を理解する。				
授業の到達目標				
1. 職業人として望ましい態度を身につける。 2. 責任ある行動を身につける。 3. 意欲的に取り組む姿勢を身につける。 4. 臨床教育指導者の臨床思考過程を理解し、説明できる。 5. 臨床教育指導者の監督・指導のもとで対象者への治療的介入を実施することができる。 6. 管理および運営の補助ができる。 7. 地域における施設と作業療法士の役割を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
	① オリエンテーション			
	② 地域実習			
	1. 実習期間：4月～9月の1週間（1日8時間×5日間）			
	2. 実習施設：学校が依頼し決定したデイケア施設			
	3. 実習形態：同一施設で臨床教育指導者の指導のもと作業療法実践能力の基礎を身につける			
	③ 実習セミナー			
	施設での作業療法士の役割や治療・介入の目的などについての発表を行う			
	④ 振り返り面接			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習内容・実習セミナーで総合的に評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
令和7年度地域実習の手引き（神戸総合医療専門学校 作業療法士科）				
自由記載				
備考				
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため、感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理につとめ、特に実習期間は健康に留意すること。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の抗体値が基準を満たしていることが、実習に参加する条件である。				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床実習I		実習	嘉納 綾・淡路 大致・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
405 時間（9 単位）		回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
1・2年生で学んだ知識、技術、技能、態度の統合を図り、作業療法実践能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、臨床教育指導者の指導・監督のもとで典型的な障害特性を呈する対象者に対して、作業療法士としての①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践できる、③臨床教育指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し作業療法の計画を立案できる、ことを目指す。				
授業の到達目標				
1. 職業人として望ましい態度を身につける。 2. 責任ある行動を身につける。 3. 自己管理ができる。 4. 意欲的に取り組む姿勢を身につける。 5. 臨床教育指導者の監督・指導のもとで情報収集・面接・観察・検査測定ができる。				
6. 様々な手段で収集した情報を統合・解釈し、対象者の全体像を把握することができる。 7. 臨床教育指導者の臨床思考過程を理解し、説明できる。 8. 臨床教育指導者の監督・指導のもとで対象者への治療的介入を実施することができる。 9. 管理および運営の補助ができる。				
授業計画				
回	内容			
	① 臨床実習オリエンテーション			
	② 臨床実習前評価 実習前に行う			
	③ 臨床実習 1. 実習期間：4月～8月の9週間（1日8時間×45日） 2. 実習施設：病院、老人保健施設など学校が依頼し決定した施設 3. 実習形態：同一施設で臨床教育指導者の指導のもと作業療法実践能力の基礎を身につける			
	④ 実習セミナー I 1人の対象者に関して実習で得られた情報を、治療後の変化点を含めて担当教員の指導の元、まとめる			
	⑤ レポート作成 臨床評価実習もしくは臨床実習で経験した対象者の統合と解釈について、レポートを作成する			
	⑥ 実習後面談			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習内容、実習セミナー I、レポートで総合的に評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
令和7年度臨床実習の手引き（神戸総合医療専門学校 作業療法士科）				
自由記載				
備考				
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため、感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理につとめ、特に実習期間は健康に留意すること。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の抗体値が基準を満たしていることが、実習に参加する条件である。				

